



心连心
Heart to Heart

心连心：中国高校生長期招へい事業

第
10
期

報告書

平成27(2015)年9月1日～平成28(2016)年7月16日

【中間研修 奈良県・薬師寺にて】



独立行政法人国際交流基金 日中交流センター

目次

はじめに……………	3
事業紹介……………	4
生徒名簿……………	5
思い出のアルバム……………	6
第十期生に聞きました！……………	14
好きなもののランキング……………	18
帰国を前に ― 作文集 ― ……	19
第十期生を受け入れて……………	51
あとがき……………	62

心連心：中国高校生長期招へい事業



報告書

はじめに

平成27年9月1日に来日した「心連心：中国高校生長期招へい事業」の第十期生31名は、11か月にわたる日本での留学を終え、平成28年7月16日、無事帰国いたしました。

全国26都道府県での留学期間中は、受入校、ホストファミリー、地域の皆さまに温かく見守っていただき、一人ひとりが様々に貴重な経験を重ねることが出来ました。ここに心から御礼申し上げます。

慣れない異文化の中での生活、日本語という外国語でのコミュニケーション、色々な悩みや戸惑いを乗り越えながら、クラスメート・先生・ホストファミリーをはじめ日本で多くの方々との出会いを得て、第十期生は大きな成長を遂げました。31名それぞれが自分の言葉で綴った作文、ぜひ一読いただければ幸いです。

国際交流基金日中交流センターは今年、設立10周年を迎えました。

約10年前、日中関係が理想から程遠い状態にあった中、「日本と中国の若者が、互いのことを知り、互いに心を開き、心をつなぎ合って欲しい」という願いから、この『心連心』プログラムは誕生しました。

それから10年の月日を経た今、本事業を通じ、中国から来日して高校時代に約1年間の日本留学を経験した『心連心』OB・OGは329名に達しました。平成28年春現在、うち1/3以上にあたる約120名が、再び日本に戻ってきて大学・大学院へ進学したり、日本で就職し社会人となって活躍しています。

『心連心』での来日当初、まだあどけなく、どことなく不安そうな面持ちだったかつての高校生。それが今では、進学・就職してそれぞれの夢や目標に向かって進むかたわら、当センターが日本及び中国で実施する様々な交流事業に協力し、自ら日中交流プログラムを企画・運営する等、「日中交流の輪を広げたい」と積極的に活動してくれています。彼等の頼もしい姿を見ることは、我々にとって大きな喜びです。

日中両国の青少年が互いの絆を深めながら共に成長していけるよう、当センターではこれからも倍旧の努力を重ねて参ります。第十期生の受入にご協力くださった皆様にも、引き続きご支援・ご協力のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

独立行政法人国際交流基金 日中交流センター
所長 阿南 惟茂

「心連心：中国高校生長期招へい事業」とは

「心連心：中国高校生長期招へい事業」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現させるため、日中両政府間の合意に基づく事業としては初めての中国人高校生の長期招へい事業として、2006年度に開始されました。本事業では“心と心をつなぐ”をモットーに、「心連心」というプログラム名称を用いています。

中国政府の推薦と国際交流基金の選考を受け、本事業の第十期生として2015年9月1日より来日した中国人高校生31名は、日本各地に滞在し、様々な活動を通じてホストファミリーや日本の高校生たちとの絆を深めました。

本事業は、中国の高校生に日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ってもらい、同時に日本の高校生たちにも同年代の中国の高校生と交流する機会を提供するものです。直に交流し、心と心結び合うことで、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる若い世代の信頼関係を築くことを目指しています。

実施概要

期間	2015年9月1日～2016年7月16日
実施体制	中国国内での招へい生選考……………国際交流基金と中国教育部が共同で実施 日本国内における受入れ……………受入校と国際交流基金が共同で実施
招へい生徒	全31名（女子19名、男子12名） 第十期は、北京市、天津市、河北省、遼寧省、吉林省、黒龍江省、上海市、江蘇省、福建省、山東省、河南省、湖北省、湖南省、広東省、四川省、陝西省より選抜
国内受入地	北海道、岩手県、秋田県、宮城県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、福井県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、広島県、佐賀県、大分県、熊本県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
経費負担	学費や教科書代・副教材費、制服代など生徒が学校に支払うべき経費を上限100万円（寮の場合は150万円）の範囲内で国際交流基金が支弁
協賛	カシオ計算機株式会社、株式会社資生堂

「心連心：中国高校生長期招へい事業」第十期生名簿

No.	氏名	氏名	性別	出身地	受入高校	都道府県
1	楊 晶智	YANG Jingzhi	男	遼寧省	立命館慶祥中学校・高等学校	北海道
2	孫 榕	SUN Rong	男	湖南省	盛岡中央高等学校	岩手県
3	吉 磊	Ji Lei	女	江蘇省	明桜高等学校	秋田県
4	黎 翰飛	LI HanFei	男	湖南省	仙台育英学園 秀光中等教育学校	宮城県
5	王 雨竹	WANG Yuzhu	女	遼寧省	埼玉県立蕨高等学校	埼玉県
6	高 天鵬	GAO Tianpeng	男	遼寧省	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都
7	沈 隽吉	SHEN Junji	男	上海市	横須賀市立横須賀総合高等学校	神奈川県
8	李 依桐	LI Yitong	女	吉林省	横須賀市立横須賀総合高等学校	神奈川県
9	欧 子萌	OU Zimeng	男	広東省	新潟市立万代高等学校	新潟県
10	劉 昕恬	LIU Xintian	女	河南省	長野県長野西高等学校	長野県
11	宋 仕喆	SONG Shizhe	男	吉林省	敦賀気比高等学校	福井県
12	孔 明熙	KONG Mingxi	女	北京市	静岡学園高等学校	静岡県
13	赫 欣桐	HE Xintong	女	陝西省	光ヶ丘女子高等学校	愛知県
14	李 昀殊	LI Yunshu	女	遼寧省	桜丘高等学校	愛知県
15	李 顔秀	LI Yanxiu	女	四川省	三重高等学校	三重県
16	劉 氷森	LIU Bingsen	男	山東省	立命館宇治中学校・高等学校	京都府
17	梁 方舟	LIANG Fangzhou	女	天津市	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪府
18	韓 東学	HAN Dongxue	男	遼寧省	清風南海中学校・高等学校	大阪府
19	邵 偲瑩	SHAO Siying	女	上海市	奈良市立一条高等学校	奈良県
20	丁 依寧	DING Yining	女	江蘇省	和歌山県立那賀高等学校	和歌山県
21	吳 嘉洺	WU Jiaming	男	福建省	岡山県共生高等学校	岡山県
22	金 瑩順	JIN YingShun	女	黒竜江省	岡山県共生高等学校	岡山県
23	曾 静好	ZENG Jinghao	女	湖北省	広島市立舟入高等学校	広島県
24	包 雲清	BAO Yunqing	女	山東省	龍谷高等学校	佐賀県
25	孫 超凡	SUN Chaofan	男	天津市	岩田中学校・高等学校	大分県
26	侯 天妍	HOU Tianyan	女	天津市	熊本県立宇土高等学校／ 立命館宇治中学校・高等学校	熊本県／ 京都府
27	何 雨祺	HE Yuqi	女	遼寧省	活水高等学校	長崎県
28	李 東哲	LI Dongzhe	男	河北省	日章学園高等学校	宮崎県
29	劉 雅軒	LIU Yaxuan	女	北京市	神村学園高等部	鹿児島県
30	張 戈	ZHANG Ge	女	山東省	鹿児島県立武岡台高等学校	鹿児島県
31	王 逸雯	WANG Yiwen	女	湖北省	沖縄県立向陽高等学校	沖縄県

第十期生の一年間

まだまだ残暑が厳しい2015年9月1日、第十期生、31名が成田空港に降り立ちました。

これから約11ヶ月間日本で生活するにあたり、東京都内で「来日研修」を行いました。食事マナーや挨拶などの生活指導、地震等の災害時に備えた防災研修を受け、日本独特の習慣やルールを学びました。また埼玉県・北浦和駅周辺で、街の様子や交通ルールを実際に見て回る「街歩き」を行いました。中国とは随分と違う文化や習慣に面食らいながらも、これから一年近くを過ごす“外国”での暮らしに期待を膨らませていました。

「来日歓迎レセプション」では、一人ひとり名前と留学先を自己紹介し、いよいよ始まる留学生活に緊張した面持ちでしたが、受入校の先生方やホストファミリーが温かい歓迎の言葉を掛けて下さり、すぐに打ち解けて会話が弾んでいました。第十期生の成長の軌跡をご覧ください！

ようこそ
日本へ！

来日研修 in 東京
2015年9月1日～5日



いろんなことが初めて、
ドキドキ...



これからの日本生活に
備えて研修



食事マナーや
交通のルールを学びました

日本の街を
歩いてみよう！





外務省・
中国大使館を
表敬訪問



国会議事堂
見学



「はじめまして、先生！」



いよいよ留学生活が
始まります！



しばしの別れ...



行ってきます！



これから一年お世話になります！

私たちの日常

同期の仲間たちと離れ、日本全国それぞれの留学先で、新たな生活をスタートさせた第十期生たち。新しい学校の仲間たちやホストファミリーが彼らをあたたかく迎え入れてくれました。

すべて日本語で行われる授業、意外と大変な部活動、文化祭や体育祭などの学校行事、電車や自転車での登下校…中国では経験したことのないことばかり。楽しいこと、辛いこと、悔しいこと、嬉しいこと、31人31通りの『物語』が日本各地で繰り広げられています。



日本の高校生になりました!



日本舞踊に挑戦



やさしいクラスメイト♡



日本文化満喫中!



部活動がんばってます!

弁論大会に
出場!

青春

放課後を
エンジョイ☆

似合ってる?

ホストファミリーとの
ひと時♪

体育祭、みんなで
チーム一丸!

初めての
文化祭!

ホストファミリーの皆さん
お世話になってます!

日本での楽しい学生生活を満喫中!!

中間研修

in 大阪・奈良
2016年2月8日-12日

来日から半年経った2月上旬、国際交流基金関西国際センターに集まり「中間研修」を行いました。

半年間の留学生活の中で、異文化への戸惑いや、友達との関係など、さまざまな悩みが生まれています。研修では、そんな悩み・不安を共有し、解決方法を探るとともに、留学先でどんなことを頑張ってきたか、写真や動画をまじえながら皆で紹介し合いました。

また、研修中は阿南所長から日中交流の歴史についてお話を聞き、日中友好のために自分には何ができるのかを考える良い機会となりました。第2、6、8期生の先輩たちも駆けつけて、留学当時の体験を語ってくれました。そして奈良の東大寺や薬師寺を訪問、写経体験もしました。

半年ぶりに会う仲間たちは、日本語が格段に伸び、自立心が芽生え、お互いの成長した姿に大いに刺激を受けたようです。充実した研修を終えた第十期生は、残り半年の留学生活に新たな目標を立て、それぞれの留学先に戻っていきました。



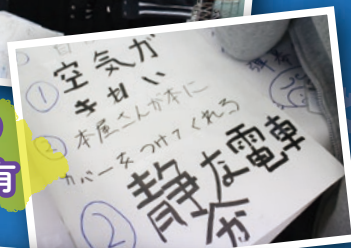
久しぶり～!



留学生活前半を
振り返ります



日本での
発見を共有



皆で餃子
を作りました



©Mariko Tagashira

和菓子作り
体験



上手に
できました♡





心連心の先輩も
集合!



鹿、かわいい〜!



写経体験



仲よし、
十期生!



奈良で日中交流の
歴史を学ぶ



絆を再確認★



あと半年頑張ります!

帰国前研修

in 東京

2016年7月13日-16日

2015年9月に来日し、約11ヶ月間の留学生生活を終えた第十期生は、2016年7月16日、31名全員そろって帰国の日を迎えました。約11ヶ月間楽しいこと、辛いことも沢山経験してきた彼らは、来日時と比べて見違えるほど成長し、精悍な顔つきになっていました。帰国前日の「帰国前報告会」では、部活動や学校行事など、日本で頑張ったことを発表し、さまざまなことにチャレンジしてきた成果を見せてくれました。

また報告会の後には「日中交流センター設立10周年記念レセプション」を行いました。2006年に設立された当センターも今年で10年、招へいた中国人高校生は合計329名に上ります。

第十期生の留学はこれで終わりますが、彼らにとってはここからが始まりです。自分の将来の夢に向かって一生懸命努力し、いつの日か日中友好の架け橋となってくれることを心から願います。





頑張ったことを
来賓の前で
発表しました!



ホストファミリーが
見送りに来てくれました!



修了証書
授与



10周年記念レセプションでは
皆でテーマソング
「対面」を大合唱



また会えるよ!

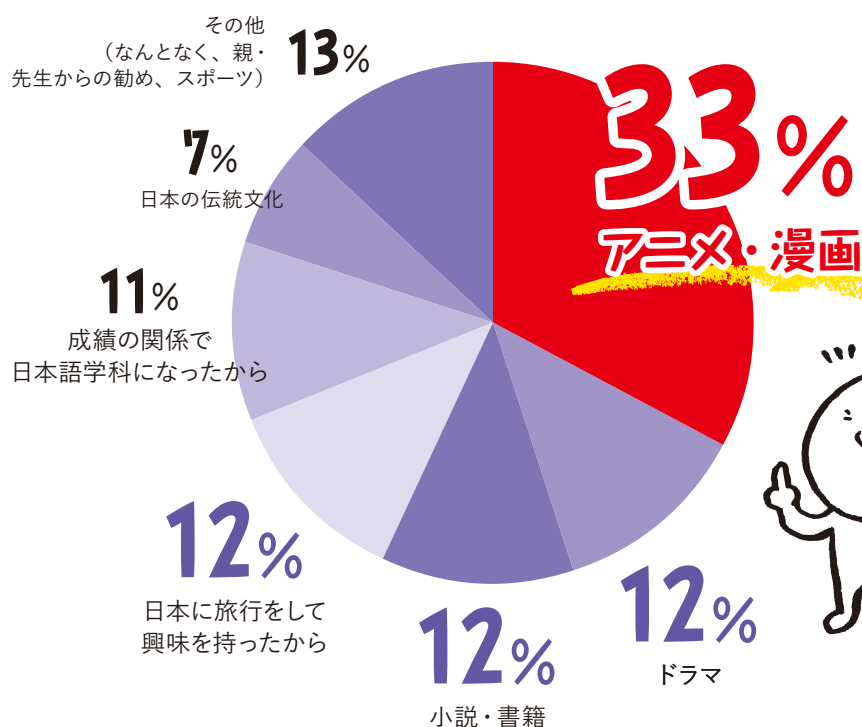
また
帰ってきます!

日本の皆さん、ありがとうございました!!

第十期生に聞きました！

約一年間の留学生活を終えた十期生の皆さんに、さまざまな質問をしました。彼らの声をぜひお聞きください！

Q 日本語を勉強し始めたきっかけは何ですか？（複数回答）

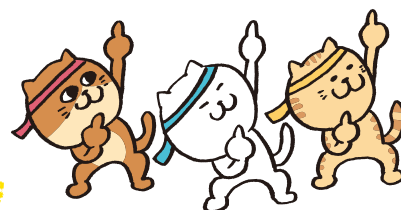


comment

日本のアニメ・漫画の人気はもちろんですが、それに続きドラマや小説・書籍などのサブカルチャー・文化作品を通じて日本語を勉強し始めた人が大半だということがわかりました。また、以前に比べると、留学以前に日本に旅行した経験があり、それがきっかけになっている生徒も多かったです。中には、「自分が持っていた日本製商品のアイデア等が良くて日本に興味を持つようになった」という生徒もいました。

Q 仲の良い友達はどのくらいできましたか？

たくさん出来た **71%**



Q 日本語は上達しましたか？

とても上達した **58%**

Q 日本の社会や文化についてどのくらい理解できましたか？

とても理解できた **65%**



Q 日本の生活を通じて
自分はどのくらい
成長したと思いますか

とても成長した

77%



具体的にどんなところが成長しましたか？（複数回答）※「語学が上達したこと」は除く

自分と異なる考え方や
社会文化を
理解できるようになった



人前で話すことが
恥ずかしくなくなった

生活スキル
（料理・裁縫など）が
向上した。



感謝、自立心、
責任感が生まれた

Q ホームステイ・
寮生活は良かったと思いますか？

23%
良かった

74%
非常に良かった

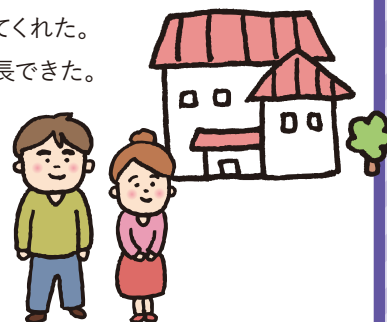
そう回答した一番の理由は何ですか？

ホーム
ステイ

- ・ 本当の家族のような関係になり、困っている時はいつも相談にのってくれた。
- ・ 時にはとても厳しかったが、その過程で仲良くなれたし、自分も成長できた。
- ・ 毎日お弁当を作ってくれて、幸せだった。
- ・ 日本人の価値観を理解できるようになった。
- ・ 毎日お手伝いをしたおかげで、料理や掃除ができるようになった。

寮

- ・ 夜、皆同じ部屋に集まって遊んだり、楽しい思い出ができた。
- ・ 友達がたくさんできた。
- ・ 寮生は家族のような存在。ケンカもあったが、仲が良い証拠。よくパーティーをやった。
- ・ 下宿のみんなは優しい。帰国前の準備を手伝ってくれたり、お土産もくれた。



comment

「心連心：中国高校生長期招へい事業」に参加してよかったと思いますか？という質問には84%が「非常に良かった」、16%が「良かった」と回答。

また、生徒の来日前の日本に対するイメージについて聞いたところ、90%は来日前から既に日本に対して良いイメージを持っていたようですが、10%は悪いイメージを持っていたようです。しかし、日本での11ヵ月の生活を通して、帰国時には全員が日本に対するイメージが良くなったそうです！やはり実際、来てみて生活してみるものの大切さがわかりますね。

Q 留学中、感動したことは何ですか？

お別れ会

- 寮のルールはとても厳しかったけど、寮の仲間たちがお別れ会のために、ルールを破って寮監長に反抗して、結局みんな怒られた。でも、本当に感動した。
- 吹奏楽部の送別会の時、みんなの最後の演奏を聴き、色々なことを思い出し、たくさん泣いた。
- お別れ会でクラスみんなが書いてくれたメッセージと作ってくれたミニ映画にすごく嬉しく感動した。



Happy Birthday!



日本で過ごす誕生日

- 自分の両親も忘れていたのに、友達はちゃんと覚えてくれていて、プレゼントをくれた。
- ホストマザーがバースデーケーキを手作りしてくれた。

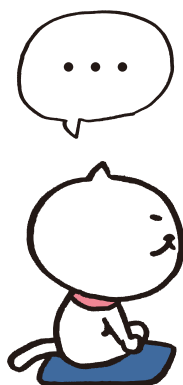
その他

- みんなと出会えたことが一番嬉しかった。離クラスの一員として付き合ってくれたことに一番感動した。
- ホストファミリーのお母さんや妹と一緒に、お兄さんのサッカーの試合を見に行き、とても感動した。一人っ子の私にとって、自分の家族のために応援するのはとても特別な経験だった。
- 人生で初めてちくわを作った。焼いたばかりのちくわの美味しさは、記憶に深く残った。
- 日本舞踊の発表会を、友達みんなが見に来てくれた。

Q 日本での生活、これが大変！辛かったことは何ですか？

言葉の壁

- 最初、言葉の壁があったし、友達もできなかったし、本当にホームシックにやられてしまいました。「やめたい」、「帰りたい」って思っていました。
- 自分の考えが他人に通じないとき。
- 最初の半年間、クラスの友達の話がわかるようになるのに結構大変だった。



交流

- 最初、クラスメートとなかなか友達になれなくて大変だった。
- 生活習慣の違いから起きたホストファミリーや学校の先生との誤解。



部活動

- 部活がちょっとしんどいと感じる時もあったけど、実は結構楽しんでた。
- 部活は厳しくて上下関係も難しく、最初はうまくいかなかった。

通学

- 毎朝の電車はすごく混んでいる。時々周囲が全員男の人で、少し嫌だった。
- 電車の路線(乗換え)が複雑で最初は大変だった！

その他

- いわゆるカルチャーショック。食事のマナーや出かける時の連絡方法など。
- 果物が高いこと。
- 政治問題への考えの違いを認めること。
- 両親とずっと会えなくて辛かった。

Q 中国の人たちにぜひアピールしたい「日本の良いところ」は何ですか？

日本人の優しさ

- 道を聞かれた人が道を知らない場合、調べて教えてくれる。
- 理容室の優しいおばあさん。毎回髪を切った後、理容室で一緒にコーヒーを飲みながら話をした。毎回、お土産にお菓子をもたせてくれた。
- 思いやりの気持ち。例えば、お母さんができるだけゴミをきれいにして捨てる。友達が電車に乗る時にいつも低い声でしゃべる、細かいところから日本の素晴らしいところが現れている。
- バリアフリーやユニバーサルデザインなど障がい者への配慮の心。
- 外食の時、食べ終わったお皿を少しでも片付ける。



環境

- 空気がきれい！街がきれい！
- 教育、医療が平等なこと。
- 人が横断する時、車が先に止まってくれること。
- ごみの分別処理は日本のいいところ。外出先で出たごみは、かばんの中に入れておいて後でゴミ箱に捨てるのも、日本にしかない良さ。



学習環境の違い

- 家庭科という教科がある。
- 部活をとっても真面目にやる。
- 始業はゆっくり始まり、終業は早い。
- みんなしっかりノートをとっている。ノートだけでなく、プリント類を分類し、別々のファイルに整理するなど、自己管理ができています。



日本料理

- レストランも家庭料理も、日本料理は本当に美味しい。日本には洋風なお店もいっぱいあるし、どこに行っても美味しい！
- 家庭料理。主婦の仕事は意外に大変。お母さんは毎日美味しい料理を作ってくれて嬉しかった。
- 日本の料理は辛い。

サブカルチャー

- ドラマやCMが面白い！
- アニメ好きの人の天国！



その他

- 日本人が、法律がなくてもちゃんとマナーを守ることに感動した。
- 女の子たちがかわいい！
- 日本人の譲り合い。バス停でみんな並んでバスを待つのが見てびっくりした。
- 店員さんの丁寧さ。
- 電車がスケジュールどおりに運行して、遅延することはあまりない。
- 周りの環境に関心を持って、大切にしているところ（地域ボランティア活動など）。
- 責任感があること。日本人は中国人よりずっと責任を負関心う。日本人はあまり袖の下を使わない。尊敬に値する。
- 反省の意識を持っているところ。
- 人との繋がりを大切にしているところ。



あなたの日本の好きなものを教えてください！

好きな日本の俳優 編

No.1 堺雅人

No.2 小栗旬／新垣結衣

No.3 亀梨和也／山下智久

【その他】福山雅治／二宮和也／斎藤工／有村架純／阿部寛／天海祐希／生田斗真／神木隆之介／北川景子／木村拓哉／窪田正孝／長澤まさみ／藤原竜也／古川雄輝／菜々緒／三浦春馬／りゅうちぇる

comment

堺雅人が1位になりましたが、中国でも出演ドラマ「半沢直樹」や「リーガル・ハイ」は大人気だったようですね。中には、「真田丸」ロケ中の堺雅人本人に会えたという生徒もいました！その他、イケメン俳優や美人女優が並びましたね。

好きな日本の本（作家） 編

No.1 東野圭吾（白夜行・容疑者Xの献身・「探偵ガリレオ」シリーズなど）

No.2 村上春樹（1Q84・ノルウェーの森など）

No.3 京極夏彦（姑獲鳥の夏・魍魎の匣）

【その他】武士道／ひとり日和／バカとテストと召喚獣／とある科学の超電磁砲／心霊探偵八雲シリーズ／ノーゲーム・ノーライフ／古都／窓ぎわのトットちゃん／山月記／デュラララ!!／風立ちぬ

comment

東野圭吾や村上春樹の作品は毎年ランキング上位に入っています。中国でも広く受け入れられている作品なんですね。その他、沢山の漫画の名前が挙がっていました！

好きな日本のテレビ番組 編

バラエティ番組

世界の果てまでイッテQ／嵐にしやがれ／VS嵐／グラジオラスの轍／ザ！鉄腕！DASH！

ドラマ

リーガル・ハイ／半沢直樹／5→9 ～私に恋したお坊さん～／いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう／朝ドラ（あさが来た／とと姉ちゃん）／掟上今日子の備忘録／怪盗山猫／科捜研の女／サイレン 刑事×彼女×完全悪女

アニメ

家庭教師ヒットマンREBORN!／銀魂／文豪ストレイドッグス／NARUTO／ONE PIECE／あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない／暗殺教室／うさぎドロップ／ウロボロス／新世紀エヴァンゲリオン／おそ松さん／黒執事／昭和元禄落語心中

好きな日本の歌手 編

No.1 嵐／one ok rock

No.2 西野カナ／宮野真守

【その他】いきものがかり／宇多田ヒカル／亀梨和也／SEKAI NO OWARI／倉木麻衣／坂本冬美／玉置浩二／手寫葵／back number

好きな日本の映画 編

No.1 劇場版 名探偵コナン／世界から猫が消えたなら

No.2 植物図鑑／千と千尋の神隠し

【その他】暗殺教室／犬と私の10の約束／海よりもまだ深く／俺俺／俺物語!!／風立ちぬ／君の名は。／近キヨリ恋愛／告白

comment

その他、色々なアニメ映画の名前が挙がりました！やはりアニメ映画や漫画原作の実写化映画がとても人気。

好きな日本のスナック菓子は??

No.1 チョコレート

No.2 じゃがりこ

No.3 抹茶味のお菓子

【その他】ポテトチップス／せんべい／和菓子／たい焼き／どら焼き／ハッピーターン／うまい棒／ブラックサンダー…など多数。

comment

その他、白い恋人や阿蘭梨餅など地域のお菓子もあがりました。

食べ物 編

No.1 ラーメン

No.2 寿司

No.3 うどん

【その他】おにぎり／炊き込みご飯／納豆／卵焼き／もんじゃ焼き／焼きそば／カレーライス／果物／ホストマザーの手料理全部…など多数。

comment

肉類・粉物類は根強い人気。中には、生醤油、わさび、塩昆布、梅干など伝統食が好きな生徒も…。以前に比べると、生ものが食べられる子が増えた気が。

番外編 嫌いな日本の食べ物は??

No.1 納豆

No.2 こんにゃく

【その他】生魚（一部）／もずく／梅干し／大根／ごぼう／おせち…など。

comment

ワースト1位は5年連続、納豆でした！こんにゃくや大根は中華料理にあまり出てこないですね。日本食ならではの食材は、不人気でした。

帰国を前に －作文集－

親元を離れやってきた日本での11ヵ月間は
笑いあり、涙ありの充実した日々でした。
帰国を前に十期生にそれらの思い出を振り返り
作文を書いてもらいました。



1年前の自分へ

立命館慶祥中学校・高等学校／東北育才外国語学校

楊 晶智

YANG Jingzhi



拝啓

楊晶智様

お元気ですか。自分が自分に手紙を書くのは、変な感じがするね、あの時の君は、たぶんどキドキしていたね。“どうい一年間になるだろう、仲いい友達が作れるかなあ…”更に“彼女はできるかな…”っていう悩みがいっぱいあったよね。先輩として、答えれることは“ご心配なく、なんでも順調だよ”

たぶん、ここに来たばかりの時、寂しく感じるよ。家族と、何年間も一緒に、いた友達と、彼女と離れて、まだ新しい友達と作ってないから、結構辛いよ、でも寮長さんと寮母さんはずっと、君の側にいて、君を守ってくれる、寮のみなさんは面白く、いうもあなたのことを助けてくれるよ。時々、うるさく感じるかもしれないけど…

君の入るクラスは2年G組、みんな勉強がすごくできる人々が集まっているクラス。最初は、みんな怖くて、怖いというか、恥ずかしくて、声をかけてもらえないよ、だから、勇気を出して話かけてね。

ここで、君みたいな留学生もいるよ、みんなすごく面白くて、彼らと一緒に時間は英語の練習の時間だよ、大切にしてくれ、この一年間、みんなと一緒に楽しいことをシェアしたり、文句を言ったり、楽しんでね。

最初の二ヶ月はなんにもわかんない状態で過ごす。授業も聞き取れなく、でもどんどん良くなるよ。ときおり、家族とか、故郷のことを思い出すけど、クラスメイトとしゃべると、全て忘れるよ。

部活は絶対にバスケット部に入るよね、この部活の部長は、他ののと同じ、めっちゃくちゃ厳し、気をつけて、練習も毎日あるから、サボることもたまにあるけど、留学生は試合とか出れないんで、覚悟をしといてください。

冬休みになると、ホストファミリーの家に行く、大川さんというおばさんがいて、めっちゃ優しい人だよ。この一年間いろんなところに連れて行ってくれて、いい思い出がいっぱいできるよ。

そうだ、この一年間、あなたは勉強の面で、すごく頑張る、彼らは“微積分”から習うので、本もたくさ

ん買う、毎日一生懸命勉強をする、ついに追いかける。

あっ、一番大切なことは忘れた!!食べ物、食べ物だ!北海道のラーメンでは、日本のラーメンの中で最高のだよ!そして、君の学校の食堂は、本当になんでもある、唐揚げはもちろん、時々中華料理も出ることがある!味はすごく優しいけど…バイキングも二回あって、ホンマに最高やで!

で、この一年間の最後は、帰りたくなる“友達がいっぱい作ったのに、ここの生活はやっとうまく行ってるのに、時間足りないなあ…”っていう気持ちがきつとある。そうなんだけど、でも今は最後に切ない気持ちになるように頑張ってるね!

あっ、そうだ、心連心の同級生のみんなと一緒に過ごす時間は最高だ、同じ状況で、同じ日本にいて、自分の楽しいこととか、悩みとか、お互いに言ったり、みんなはきっと一生の親友になって、誰にも大切にしてくれ!

先輩が言えるのがこれ以上だけで、とりあえず、この一年間が君にとっては、成長の一年間だよ!

敬具



成長と変化

盛岡中央高等学校／長沙外国語学校

孫 榕

SUN Rong



いよいよ帰国近づいた。この一年間を振り返ると、私は特別なことをあまりやっていないように気がします。普通の高校生のような、勉強もしました、部活もしました、友達ともたくさん話しました。自学自習をさばりたいでも先生が怖いからやっぱいいや。そういう感じでこの一年間を過ごしました。

そしてこの普通の生活の中、私は自分の成長、友達の成長；自分の変化、友達の変化を感じました。

私が最初日本に来たとき、すごく緊張していた。クラスに入るとき、知らない人ばかり。日本語が上手ではないから、クラスの皆の名前をよく覚えることができない、皆としゃべりたいけど皆はどんな話題で話しているのわからない。

そして、皆の名前を聞いてノートで書いてもらいました。おもしろいものを見たとき「これは話題として使える!!」こういう時もあります。こうやって皆とどんどん仲良く、この一日一日の話す積み重ねで日本語の会話もうまくなってきた。

一方、勉強の方私も同じくわからない。日本の学校の宿題やノートの作り方などいろいろなところと中国の時は違いますので、最初来たときは本当に「右も左もわからない」というような状態。よく「英語のノートはどうやってつくりますか。」「これの提出日はいつ。」こんなことを聞いた、皆優しく答えてくれたおかげで、今もうまくなった。

勉強と人間関係以外のことで、この一年間、私は一番やったことはギターをやりました。

中国にいたときずっとロックに興味がありました、でも勉強以外あまり時間がなかったので、やりたいでもただ想像だけ。日本に来た後、勉強はそんなに緊張ではない、これをきっかけでギターをやりました。

ギターが全然分からないままにギターを買った後、毎日夜本屋で買った「いきなり弾ける!エレキギター」という本を見ながらギターを練習しました。時々時間も忘れて、気が付いたときもう夜12時になっていました。

12月末の時、ずっと部活をやっていない私もついに部活を決めて軽音部に入りました。バンドを組んだ、スタジオで練習する。今は文化祭の発表を目指して練

習しています。

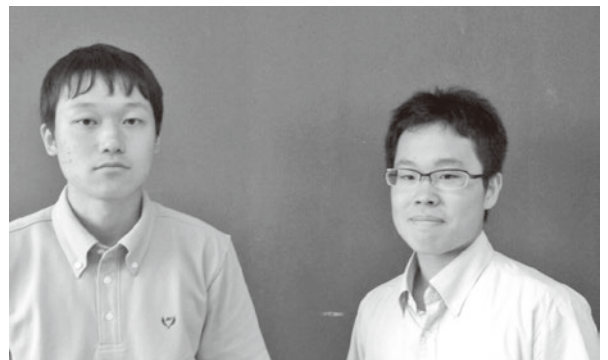
私以外、クラスの皆さんや友達も成長していました。

友達の大田君は合唱部の部員であるが、去年私が来たとき、合唱部は廃部状態で、全然活動がない。大田君もずっと暇な状態で、11月から部長の鈴木君は活動計画を立てていた後、合唱部も大会に参加したり、新歓で発表したり、今回の文化祭も出ます。大田君も忙しくなりました。

同じ軽音部の篠田は去年7月からギターを始めました。なんか篠田はバンドで元はヴォーカルをやっていた、いろいろな原因でギタリストになりました。ギター始まった一週間後すぐ文化祭に出た、すごく勇気があると思います。そして思い通りにやばかった。でも篠田は本気にギターがすき、毎日練習している。篠田のバンドのライブを何回か見たことがあります。毎回篠田のギター技術は前回よりうまくなっていましたので、今年文化祭篠田たちのライブを期待しています。

それ以外にもいろいろある。しもさんラブライブのダンスがうまくなった、かずやもそんなにびびっていない皆と仲良くなった、そして今年茶道部に入れました、うのうら君の中国語が驚くほどのレベルになった。皆成長しました。

去年11月考査が終わった後、大田君と話したとき、突然「こんな普通の日常は、必ずいつか私の大切なものになるかな」と思いました。今振り返ると、この一年間皆と普通に話したり、遊んだり、楽しいこと、悲しいこと、怒ること、喜ぶこと、このすべてすべて私のかけかえのない大切な宝物になりました。



私が感じた日本

明桜高等学校／蘇州外国語学校

吉 磊

JI Lei



日本に来てからもう10ヶ月経ちました。

本当に、楽しい毎日だった。

最初の頃には、未だ色々心配な事も有りましたが、周りの人達はとても親切に教えて貰いましたので、特に困った事は無かったです。

そう言う言い方じゃ、ちょっと変かもしれませんが、10ヶ月前、見知らぬの地に至ったばかりの私にとって、其の頃の皆様の優しさは自分にとっての救いだった。

今も尚。

ホームステイのお父さんやお母さんのお世話、学校の先生の気使い、クラスの友達の交流……何一つ、感謝し切れずもんは無い。皆、大事な、大事な、私の宝物です。

約一年の時間は、長くても短くても無い、気付けば時はもう過ぎました。唯、其の一年間の日本の生活は私にとってはもう、置き換える事が出来無い、大切な思い出と成りました。例え、中国に帰っても、私は忘れません、私は此処で どれだけの人と出逢いたかを。此処での思いはきっと、私のこれからの人生にも、色々役

に立つでしょう。

あともう少しで中国に帰る事に成る、あと僅かの一ヶ月で、私はちゃんと大事にしたい。最初来る時からもう分かっていました、一年なんて、あっという間の事です、だから最初から今に至るの毎日、私は大事にしています、ので、私は時間が速いなんて思った事はありません。でも、この最後の時間の中で、私はもっともっと、大事にして欲しいです、前よりもずっと……

多分、一生会えんかもしれません。会いたければ会えるの時代に成ったが、けど……特に理由や縁が無ければ、私達はもう……

もう少し日本の皆さんと一緒に居たい、もっと 話したい、もっといっぱい思い出を作りたい……一期一会……

異国の人々との付き合い、交流、生活……本当に沢山の物を学びました。其の間、愉快や不愉快な事ももちろん両方共あります、が 其れでも私はちゃんと成長しました。まだまだ不熟だが、確かに、成長している

未来の私はきっとこう言うんだろう、日本に来て よかったと……

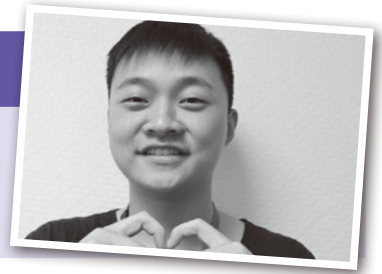


梔子が咲いた頃に

仙台育英学園 秀光中等教育学校／岳陽市外国語学校

黎 翰飛

LI Hanfei



もう六月になった。去年のこの頃、私たぶん中国の学校でまじめに勉強しているかな。去年の九月、私はほかの30名友達と一緒に日本にきました。今までもう10ヶ月過ぎましたが、悲しい時もあり、楽しい時もあり、日本での記憶は私のこの一生で絶対に忘れない大切なものだと思います。

9月5日、私は東京から新幹線で仙台にきました。初めての異国生活はそんなに目新しいですけど、緊張感も出てきました。この日、私は逃げてしまいました。日本人のまえて日本語をしゃべることがはずかしいので、逃げました。「ダメだ」、「無理だ」、「恥ずかしいからしないほうがいいかな」そんな消極的な思いが出てきました。その後の学校生活も先生何を言いましたが意味が分からないですが、自分が迷っています。そのとき、母と電話してこのことも言いました。「そんなこともう一回しないほうがいいよ、日本人と話すこともある程度の体験だよ」と言いました。その後学校もいっぱい活動があるから、みんなとの関係はだんだん良くなりました。

11月15日、この日が私の誕生日と私の今の学校仙台育英学園秀光中等教育学校の学園祭です。毎年、秀光祭は音楽祭みたいで歌ったり楽器を演奏したりします。その日、私は普通と同じように学校についたが、白板

の上で「レイ君、誕生日おめでとう～」と書いてあります。初めての両親がそばにいない誕生日ですが、クラスの友達からの祝福はそのときの私にとって珍しくて貴重なものです。その日、みんなと一緒に歌ったり、笑ったりしていました。自分にケーキを買ってもらう、いつもと違う誕生日が過ごしました。

12月29日、私はホストファミリーにいた新年を過ごしました。お母さんとお父さんも優しく、お兄さんは私と同じアニメが好きですが、お姉ちゃんが一回中国で留学しましたが、中国語もちょうとだけできます。こんな家でさびしいなんてぜんぜん感じなかった。一緒に大福つくったり、神社に参拝したりしました。自分はほんとにこの家の一人見たいです。ただ6日ですけど、よい記憶が作りました。

2月8日、心連心のみんなが大阪で集めて中間研修やりました。みんな一緒に餃子や和菓子など作りました。自分の半年の留学生生活を交流して楽しんで五日間が終わりました。

この10か月、私は日本で学んだものは、お礼とルールへの守るということです。以前のなんでも恥かしい私も明るくなりました。この梔子がそろそろ咲く季節で私たちもそろそろかえります。私たちの未来がこの梔子のように、美しく咲きましょう。



一期一会

埼玉県立蕨高等学校／東北育才学校

王 雨竹

WANG Yuzhu



ときは平成28年の6月、私が中国に帰るまであと一ヶ月。「王ちゃん、もうすぐ帰っちゃうの?」や「いつまでいるの?」などの質問は最近よく聞かれる。正直言うと、私はこのような質問は好きじゃない。こういう質問は私に時間というものの残酷さを思い出せるからだ。でも、私がどうしてもこのような質問は昔どこかで聞いたことがあるような気がする。そうか、ちょうど1年前だ。私が母国を離れて一人で日本に暮らすことを決めたのは。

1年前、留学という言葉の意味を全く知らなかった私が、一人でずっと憧れていた日本へ向かった。「辛いこともきっとあるだろう」と考えながら、私はひたすら前へ進んでいて、日本の生活を馴染むために必死に頑張っていた。でも、状況は思ったようにうまくいかなかった。生活習慣も学校も何もかも違って、私が思った常識は異国の日本では適応できなかった。どうすればいいかが全くわからず毎日悩み続けている私に1年9組のみんなが優しく声をかけてくれた。私に何か困ったことがあったら、みんなが必ず助けてくれる。こんな優しいみんなと出会って、私は異国での暮らしに対しての緊張や不安を乗り越えることができた。私は一人じゃない、こう教えてくれたのは1の9という大きなファミリーだった。

日本に来てから1ヶ月後、私は部活動を決めた。お抹茶やお花との出会い、そして、茶道、華道、英語を通じて部活仲間との出会いが私に青春を語ってくれた。今頑張らないといつ頑張るの? 青春は一度しかない! 自分の青春を輝かせたい! こういう気持ちを持って、私は一年間部活で頑張っていた。同じ学年の生徒は2人しかいない華道部で、私と彼女は華道部の未来のために努力し続けていた。2人で、生花の展覧会を見に行ったり、家で練習したりしていた。私たちの努力がいい結果を生まれだして、3人の一年生が華道部に入ってくれた。部活で仲間と一緒に過ごした時間はとても楽しくて、充実だった。

学校で頑張っていた私にとってのリラックスの場は家だ。それは帰ったら温かいご飯が置いていて、出かけ

る時に「いってらしゃい」を言ってくれる人がいて、怪我や病気になったら、心配してくれる人がいるホストファミリー。そこで、私は新しい「ママ」、「パパ」や「兄弟」と出会った。新しい家族ができて、たくさんの人に愛されて、私は幸せを感じた。生まれて初めて海外で迎えた誕生日、私は不安だった。けれど、ホストファミリーのみんなが覚えてくれた。私は今でもはっきり覚えている。あの日、学校から帰ってきて、とても素晴らしい誕生日パーティーが私を待っていた。妹さんからももらったスイーツ粘土で作ったロールケーキとママからももらったマフラー、私は今でも大切に持っている。

私はこうのように、学校の先生や留学生同士など、たくさんの人と出会って、身近な人との間に絆を築いていた。お茶会に臨む際には、その機会は一生に一度のものと思得ると同じように、この一年間、私もたくさんの人との出会いは二度と巡ってこないと考え、この一回一回の出会いを大切に。一期一会だから。



時空のハザマで、記憶が

東京学芸大学附属国際中等教育学校／東北育才外国語学校
高 天鵬

GAO Tianpeng



ね～、覚えている、あの頃……………

「黄色ガンバ、負けんなよ」「負けたら許さんぞ～」「我々は最強のチームだよー」「黄色ファイト」「おいー、お前らの根性を俺にみせろ!!!」「これからチャンピオンのチームを発表します、優勝チームは、黄色です～」
「おいおい、俺ら勝ったぞー」「私、初めて勝ったわ～」
2016年6月9日のあの時、世界が一瞬静まり返ったかのように、あの時初めて強く思った、ここに来るのには意味がある!無駄じゃないと強く思った!みんなの笑顔を見て、みんなと一緒に盛り上がり、みんなと団結して試合に勝って、本当にこの瞬間で一年間にあったつらかったこと、悲しかったこと全部どうでもいいと思った。

2015年9月1日、この日は一生忘れない日かもしれません、この日から、俺はこの国、日本に来て、人生初めての留学生活が始まった。日本に来る前に自分が日本での生活はどんなにいいか、夢で見えていたですけど、夢はどうせ夢、現実ではない、楽しかったことももちろんあったですけど、やはり人生はいつも順風満帆ではない。特に最初の時、日本に来るのを後悔したこともありました。今よく考えれば、これは神様からの試練だろう。神様は俺がこの困難を乗り越えられるかどうか、本当に成長しているかどうかの試験だろう!

「みなさん、初めまして、僕は高天鵬と申します、どうぞよろしくお願いします」、ほかの人の目から見るとこれはただの普通な自己紹介だろう、でも僕にとってはこれが新しい生活および、これからもうすぐ会う困難たちへの宣戦だった!最初の時この戦いはこっちが一方的に勝った、そう、あの時、日本はやはり自分が思った通りに、発展して、みんなマナーを守って、優しい人が多い国だと信じた。学校でみんな俺のこと興味を持って、みんな話しかけてくれたし、ホストファミリーとの関係もよかったし、一緒に祭りに行って、いろんなところに遊びに行った。本当にあの時は最高だった。

でも前に言った通りに人生はいつも順風満帆ではない。学校の人たちだんだん僕のこと興味を失って、話しかける人もいなかった、だから寂しさの気持ちは一瞬体から溢れて、本当につらかった。そして段々日本にも

マナーが良くない人もいると気付いた。段々日本の印象は僕の思った日本から離れて、あの時本当にガッカリ、サビシカッタ!でもそんな俺に支えたのは俺のホストファミリーだった。特にお母さんとヤコブ(*ヤコブはもう一人ノルウェーからの留学生)、この人たちのおかげで、生活に対する情熱は消えなかった。だからありがたい。もちろんこのつらい時をガマンした後、向かいにくれたのは成功の光。確かに日本は僕の夢の中のような完璧な日本ではない、でも時間が経って、僕も段々現実の日本の生活に慣れてきて、僕にとって、ここは僕の2番目の家かもしれません。

最初の時、一年間は長いと思ったが、いまはもはやもうすぐ向こうに帰る日になった。いろんな人と出合って、いろんな経験を得て、いろんな困難を乗り越えて、後悔しなかったとは言えないですけど、せめて日本に来てよかったといいたいです。ありがとう運命よ～

将来の俺に……………ね～、覚えてる?あなたが運命からの試練を受けた頃!



われの旅

横須賀市立横須賀総合高等学校／上海市甘泉外国語中学

沈 隽吉

SHEN Junji



旅立ち

北京空港、それは全ての始まりです。

「これから、どうなるだろう？」

「日本って、どんな国でしょう？」

「新しい友たちができるかな？」

「ホームステイ先の人とはどんな人でしょう？」

いろいろな疑問を持って、私たちは飛行機に乗りました。

秒速250メートル

飛行機の窓から見ると、地面がどんどん離れていきました。到着まで後2時間あります。その間に、その気持ち、自分もよくわかりませんでした。席の前についているタブレットで遊んでいると、時間がだんだん経ちました。

初めてのホームステイ

「綺麗な庭ですね」「この屋敷にはあやかしが宿っているか」それを考えて、今まで住んでいた家に入りました。初めてだから不安なのは当然です。一日目の晩ご飯、今でも覚えています。

初めての授業

「日本の授業は中国となにが違うのでしょうか？」その心配を持って、教室に入りました。今もきっちり覚えています。授業を選ぶとか先生たちに自己紹介をすとか、授業は午後から始まりました。CADです。CAD、Computer Aided Design 縮めてCADです。多分この私が通っている横須賀総合高校でしかない科目かもしれません。先生はとてもいい人です。ちょっと緊張していましたが、授業はうまくいきました。

羅針

羅針はうちの学校の一番の特徴でしょう。羅針とは、自分自身の興味や関心、あるいは進路に応じて設定した課題についての知識や技能を深めていく学習活動です。その時やり方とか課題とかは何も分かりませんでした。色々大変でしたが、今考えると実に将来のため役に立ちます。それに人生初全学年生徒前の発表もここで行いました。今から考えると、私も羅針のおかげでどんどん進歩していますね。

キズナ

やっぱり、新たなところについたら、キズナという奇

妙なものが生まれるでしょう。ここで、特にふたりに感謝しなければなりません。野中 祐太郎君と堀江 美穂さんです。その二人はわたしが来たばかりの時、わたしに自信をくれました。本当にありがとうございます。それに、他の人、生徒も先生もいろんなところで私を助けてくれて、本当にありがとうございますとしか言えないです。

来て感じたこと

「日本人は勤勉過ぎるか？秩序意識が強すぎるか？親切か？付き合いは難しいか？」これらが、私が日本に来る前のごく単純なイメージでした。日本に来たばかりの私が、普通の日本の社会と接することができたのは多分買い物でした。何を買っても、店員さんはいつも細かいところまで気を遣ってくれます。それは中国と全然違います。そして彼らの姿を見ながら、「日本が経済大国になるためのベースの一つはここにあったのだ」と思いました。

以上

われの旅はまだこれからも続くでしょう。でも、この美しい島国、私の心に深く残りました。最後にここでたくさんの人に感謝しなければなりません。文字数の原因で一つ一つ説明することができません、でも感謝します。本当にありがとうございます。



友達へ

横須賀市立横須賀総合高校／長春日章学園高中

李 依桐

LI Yitong



時間はよく気付いたうちに無くなる、今思うたら初めて日本に来たとき、初めてホストファミリーのお母さんと話したとき、部活に入ったとき全部昨日のことみたい。最近ば李ちゃんはいつまでいるの?」「こんなに早いのか?」「寂しいな…」ってみたい話はよく聞きました、時間はどんなに早いのか今さら分かりました。後悔なこともたくさんあり、恥ずかしいこともたくさんやりました、だけど友達の卒業式に参加できないのは一番残念だと思う。

「まだ一緒に部活やりたい、一緒に卒業したい、一緒に大人になって遊びたいのになんで私は帰らなければいけないの?」呆けたときよくこう考えて、友達言い換えれば女の子たちの笑顔や悩んでいる様子やだんだん頭の中に明らかになってきました。家よりも学校にいる時間はもっと長いかもしれません、私のそばにいて支えてくれた女の子たちはもう二度と会うことができないから、最後はただ彼女たちのことが言いたい。

日本の女性に対して最初から何も知らなかった、ただアニメや小説やドラマや見るだけで不十分です、東野圭吾さんが書いた女性が一番深い印象が残りました、美しくて鋭敏な頭脳を持って自分の目的を達成するためには手段は選ばないというイメージで、すごく魅力的だと思った。実際に日本の女の子は二次元のキャラクターと違い、話したら優しいしか言えない。

「私はまず学生でありまたは女子」小さい頃からずっとこんな考えだ、友達の姿を見て違いを感じた。勉強も部活も苦手なスポーツでも諦めずに頑張っている、どんなに忙しくても、性格も表情もいとも明るく見える、これは私が出来ないこと。「彼女たちはまず女子でありまたは学生だ」と考えながらんだか羨ましい気持ちになった。私一番聞きたくないのは性別についての話だ、女性として生まれてよかったという気持ちは一度も持っていなかった。同じことなのに男の子がすれば褒められる、女の子がすればよくやめたほうがいいと言われるから、自分の性別が嫌いになって、結局私は性別のことを考えずに差別問題から逃げました。

だけど日本の女の子たちは違う、彼女たちは自分を認めて堂々と女性として生きている、戦っている、比べれば私はただの臆病者だけだ。日本に来る前に「あの子の笑顔を守りたい」という話が理解できなかった、彼女たちと一緒に努力したこの十か月間過ぎてようやく分かりました。愛情ではなく、ただ友達として彼女たちの目の輝きを守りたい、一生の優しいがあげてもいい、ずっと元気で笑ってほしい。

いつも助けてくれてありがとう、皆のことは一生忘れない。

さようなら。



日本での思い出

新潟市立万代高等学校／深圳外国語学校

欧 子萌

OU Zimeng



私は日本に来た時、自分のコミュニケーション能力に自信がなかったので、とても不安でした。でも、ホストファミリーがとても熱心でやさしく、いつも私をいろんな場所に連れて行ってくれました。そして平日の夜は家族で、毎週「hippo family club」という国際交流をする活動に参加して、たくさんの日本人に会うことができたので、私の日本語力はだんだん良くなったと思いました。

休日には、神社のお祭りや、琴のコンサートなどにも連れて行ってもらいました。一番印象に残ったのは、新潟に来たばかりの時に、家族といっしょに見た「新潟よさこい祭り」です。道の真ん中で、人々が色とりどりの祭りの着物を着て、踊ったり遊んだりしていました。にぎやかな雰囲気、とても楽しいと感じました。いつか自分も参加したいと思いました。その時に初めて食べた「ポッポ焼き」がおいしかったです！！

家では、子供たちと私の趣味が合ってうれしかったし、日常会話もとても面白かったです。夜はいつも、中学生の子龍さんと、高校生の歌乃さんと亮さんと、お菓子を食べながらゲームをして楽しみました。

5月末には、他の家で短期のホームステイをしました。同じ学校の、高校2年の直子さんの家に3週間泊りました。短い期間でしたが、日本の違う家族と過ごしてみても良かったと思いました。直子さんの家族は姉妹2人だけで、お母さんは中国人でしたが、学校生活の様子について日本語でたくさん話しました。家から高校がとても遠くて驚きました。近くの駅まで30分歩いて電車に乗り、新潟駅から高校までまた40分歩いて通いました。毎朝6時ごろに起きなければならなかったのもとても辛かったです。でも、この3週間は家族とたくさん話ができてとても良かったです。

学校生活もとても充実していました。日本に来たばかりの時、自信がなくてクラスメートに話しかける勇気がありませんでした。そんな時、クラスメートはとても親切で、落ち込んでいる私に話しかけてくれました。だんだん自分の心が開いていきました。昼休みにはいっしょにお弁当を食べたり、体育館でバスケットボールをしました。学校が終わった後、みんなで海を見に行ったり、

近くの公園で遊んだりしました。そんな時間が過ぎて、今では同じ趣味を持つ気の合う仲間がたくさんできました。

今年の2月に、長野県で3日間のスキー授業がありました。私は中国の南のほうの出身ですから、雪を見たことがなかったし、スキーもしたことがありませんでした。スキーの先生や仲間たちが親切に教えてくれたので、最後には完璧にできるようになりました。2日間、夜は部屋で遅くまで仲間たちと話して、とても忘れられない思い出となりました。

もうすぐ学校では体育祭があります。これは日本の高校での最後の行事ですから、楽しみにしています。

この一年間たくさんの人々にお世話になって、心から感謝します。この一年間でたくさんのことを教えてくれて、たくさんのことを体験させて、本当にありがとうございます。

この一年間は私にとって本当に意義があります。



心の扉を開ける

長野県長野西高等学校／洛陽外国語学校

劉 昕恬

LIU Xintian



このプログラムのテーマは「交流」。しかも「心連心」のような交流。「心連心」の参加を決める前に、わたしは既にこれをわかった。でも、「なかなかむずかしいじゃない?」と思った。交流の前提は言葉、だけどわたしは自分の日本語に本当に自信がなかった。「日本人はしゃべるのがはやいから絶対わからない。」「聞き取れなかったらどうすればいい?」という質問もいっぱい自分に聞いた。それにしても、やっぱり参加したいなあ、やっぱり日本に行きたいなああって思って、先生にいっぱい教えてもらって、友達といっぱい練習したあと、どきどきして面接をうけた。

東京での研修で先生たちや先輩たちにいっぱい教えてもらった。一緒に来た仲間たちもみんな仲良くなってきた。わたしも日本での生活に自信を持つようになって、楽しみにしていた。

最初登校日のことをまだ覚えている。クラスメートたちはどんな人たちだろうと思って、どきどき教室に入った。でも、驚くことに、7組は中平先生が紹介してくれた以上すごく元気だった。あいさつも大きい声で返事してくれたし、お昼も誘ってくれたし、学校のあちこちもつれていてくれた。さすが国際教養科だなあと考えた。

みんなは国籍はどうでもいいというふうに付き合ってくれた。わたしもすごく感動して、自分からもっと積極的にみんなと交流するように頑張った。一年間でいろんなことを一緒にやってきた。最初の英語合宿から、今の合唱コンクールと文化祭まで、わたしは皆さんとすこしずつ親しくなってきた。今はもう「日本人以上の日本人で、全然違和感ない」って言ってくれた。

でもこれはわたし一人の力で絶対できない。やさしいみなさんがないと今はどうなっているか考えられない。今回の交流を通してわたしはわかった、人と交流するとき、心の扉を開けなければいけない。本当の気持ちを伝えたこそ、相手が心の扉を開けてくれるようになる。

クラスメートだけではなく、ホストファミリーの家族も私のことをやさしく、楽しく受け入れて、本当の家族のように付き合ってくれた。日本の生活を体験しに連れて行ってくれた。感謝の気持ちは言葉で言い切れない

けど、本当にありがとうございました!

今回の珍しい機会のおかげで、私は来る前に日本についての疑問や誤解は全部消えた。私の目で本当の日本の様子、本当の日本人の様子が全部わかった。でも、やっぱり両方の国で、お互いに相手の国に対して疑いを持っている人がまだ多い。こんな現状を心配している同時に、自分の微力を尽くして、両方の国で自分の目でみた事実をできるだけ多くの人に伝えたいと思っている。

一人一人の力は小さいけど、みんなの力を合わせれば、日中友好は絶対夢ではない。交流の中で一番重要なのは心の扉を開けることだと思っている。まずは自分から積極的に心の扉を開けたら、人から返事をもらうことができる。

これが今回の交流で私がわかったこと。

最後で、この一年間でお世話になった先生たち、友達、そしてホストファミリーの家族に—

一年間、お世話になりました!ありがとうございました!



一致団結のすばらしさ

敦賀気比高等学校／長春日章学園高中

宋 仕喆

SONG Shizhe



日本に来てからすでに10ヶ月が過ぎました。初めて登校した日はとても緊張していて、日本人生徒の前で自己紹介した時にはぎこちなくなってしまう、みんなに大笑いされた恥ずかしい思い出があります。

日本に来て私が一番感じたことは、みんなで一致団結することのすばらしさです。

今回の留学では私は部活動に挑戦しました。まず私は新聞部に入部しました。新聞部にはもともと部員が1人しかいませんでした。今まで日本語で新聞を書いたことがなく、部長の山本勉先輩にいろいろと教えてもらいながら作成しました。「そうくんのつぶやき」というコラムを任せられ、そこで日本語で文章を書く経験を積みました。自分が書いたものをみんなに読んでもらえると思うと、とてもやる気になりました。

11月には福井県内の新聞部の研修に連れてもらいました。福井市の藤島高校で、他校の新聞部と一緒に交流新聞を作りました。みんなで何を取り上げるかテーマを話し合い、意見交換をし、取材を行いました。みんなで協力して最終的に素晴らしい交流新聞が仕上がった時はとても感動しました。今までのように2人だけで作成するよりもはるかに楽しい経験でした。

その後、先生に勧められ、私は吹奏楽部にも入部しました。昔、中国でトランペットを吹いていた経験があったので、それほど吹くのが難しいとは感じませんでした。しかし、先生からコンサートがあると聞いた時はかなり焦りました。今まで団体で演奏をしたことはなかったか

らです。初めは自分に全く自信がなく、本番でミスをするのを恐れて参加したくはありませんでした。しかし、パートのみんなに励まされ、勇気を出して合奏に参加しました。上手に吹くことはできませんでしたが、誰も私を責めませんでした。そこで私は頑張ることを決意しました。

あっという間に、3月のスプリングコンサートがやってきました。ステージ上で大勢の人の前に演奏することはとても緊張し、演奏が終わった時、私は汗びっしょりでした。

「うわ、めっちゃ緊張した！でもみんなで、一丸となって演奏することがこんなに楽しいと思わなかった！」

これが、あの時の私の一番の感想です。

その後、野球部の甲子園出場の際、アルプススタンドで演奏したこともありました。とても楽しい貴重な体験でしたが、残念ながら二回戦で負けてしまい、その時はとても悔しい思いをしました。

そして私の最後のステージは嶺南音楽フェスティバルでした。他校の演奏を聴き、やはり自分の技術はまだまだだと痛感しました。

新聞部と吹奏楽部の兼部は大変でしたが、大変良い経験になったと思います。

新聞作成や演奏だけでなく、みんなで一つの目標に向かい一致団結して頑張ることはそれだけで十分すばらしいことだと分かったことが、今回の留学で私が学んだ最大の収穫でした。



留学生としている私たちの立場

静岡学園高等学校／北京市月壇中学

孔 明熙

KONG Mingxi



今、世界はどんどん一体化になってきます。どの国でも、どんな国でも、この一体化の中から逃げることができません。しかし、国々の立場は全部同じではありません。社会主義、資本主義、共産主義。区別がある歴史、考え方の違い、色々の問題があります。

特に今、日本と中国の微妙な関係。日本と中国は隣国である、昔から貿易の往来や文化の交流があります。それとも両方の文化も近いです。中国の三国の時日本の卑弥呼さんは魏と言う国に行きました、唐の時代は遣唐使もいました。その時、両方の関係は悪くなかったけど20世紀から、悪くなってしまいました…それは立場の違いなのです。

昔、留学生とは、お互いの文化を習うため、外国に行って勉強する人たちのことです。文化や良いところを習って自分の国に役に立ちます。でも、今の留学生のやるべきことはそれだけではなく、習うことはもちろん大事なんですけど、習いの途中から両方の関係を良くなるように頑張ること、努力することも大事だと考えます。

でも、お互いの関係に片方だけ努力をするのはさすがに無理です。両方の良い関係のため、両方の協力が必要です。自分の国、自分の身分を忘れずに相手の良いところでも悪いところでも受けて、良く考えてそして結論を付けます。ただの受けるとか断るとか、やはり両方の関係に役に立ちにくいでしょう。

私は今まで全く違う4つの家庭でホームステイをし

ました。中国に対して悪いイメージを持ってる人もいるし、良いイメージを持ってる人もいます。私が中国のことを話す時、あまり聞いていない人もいます、ただ聞いているだけの人もいます、聞いて考える人もいます。

聞いて考える人と話す時のほうが、自分にとってもっと勉強になると考えます。

これはどうしてでしょう？

前の言うような「考える」というのは良いところと悪いところを分ける道です。この道を過ごした結論のほうが説得力があるでしょう。このような、両方も良く考えて話すのは、きっと文化の交流だけではなく、お互いの思想までも理解できるようになります。

中国の媒体でも、日本の媒体でもきっと相手の悪いところを放送しています。だからこそ、私たちの留学生は重要です。日本の留学生でも、中国の留学生でも自分の国の本当の姿を伝えるべきです、もちろん良いところ悪いところだけではなく全体的に伝えるべきです。そうすると、両方の認識を全面的になって、国のイメージを完全しておきます。

国々の関係は数日だけで変わることはありません、色々な事に関係があります。例えば、思想、プライド、利益、習慣など。私たちができるのは中立的に考える、変われることを変える、お互いの認識を広げる、相手の人民との仲良し。このような簡単な小さいことです。



日本で感じたこと

光ヶ丘女子高等学校／西安外国語学校

赫 欣桐

HE Xintong



日本は初めて行くわけではありませんでしたが、どうしようもなく緊張と不安でいっぱいでした。前と違って、今回、先生と友達はそばにいません。たった一人で知らないところへ行き、そこに待っているのは知らない人たちばかりです。こんな経験は初めてです。

ホストファミリー ありがとう

私は本当に運がいい人だと思います。二つのホストファミリーは全部優しい人でした、私をいろいろなところに連れて行きました。そのおかげで、東京、大阪、奈良、京都、和歌山、名古屋など私はずっと行きたかったところは全部行きました。それに、ホストファミリーと一緒に日本文化を体験したり、街の風景を楽しんだりして、日本という国をよく見ました。私はもうすぐ帰国しますが、会いたい時には、絶対会えるので、また会う時にはどこかに遊びに行きたいんです。長い時間、私を受け入れて頂きありがとございました。それでは、また会う日まで。

光ヶ丘という女子高

初めて、光ヶ丘女子高校に通うのを知って、アニメが大好きな私にとって、大変興奮でした。それは、女子校はよく漫画やアニメの舞台だからです。私はこれからアニメの世界に入っていました。光ヶ丘女子高に対してとても興味が湧いてきました。

光ヶ丘女子高校はどんな学校かというと、普通、女子校はお嬢様ばかりでルールが厳しいイメージがしますが、実際に、そこに男子学生がいないだけで、そのほか、共学と相違ありません。面白い授業だったら、みんなまじめに勉強し、つまらない授業だったら、集中できなくてぼんやりすることもよくあります。

そう見れば、この学校は共学とそれほど違っていませんが、しかし、ただ一つ大きな特徴がありました。

宗教とは

それはカトリックのキリスト教の学校だったということです。この学校に入ると、校舎の上に大きな聖母マリアの像があります。真っ白で美しい像でした。教室でも十字架と聖母子の絵を飾ってあります。本当にキリスト教色が強い学校でした。毎朝、授業が始まる前にも、聖歌を歌ったり、お祈りをしたりしていました。

毎日、このような生活を続けて、宗教という言葉はただ「神」の存在を信じることだけではないのが分かりました。宗教とは自分の1日を反省して、自分の行動を規範することです。宗教は千年以上の歴史があります。科学が発達している今でも、宗教という文化が存在しています。以前の私は全然考えたことがありませんでした。今、考えてみれば、宗教は人間に必要なからこそ、長い歴史で存在しているのではないのでしょうか。

この学校は本当に素敵な学校だと思っています。この学校の環境だけではなく、この学校にいる先生と学生達も素敵だと思っています。

「ふーちゃん」の起り

初めて教室に入って、みんなと出会った時、不安でした。でも、みんなの笑顔を見た瞬間、私はこのクラスを好きになり、落ち着くようになりました。不思議だと思いました。みんなは私のことを「フーちゃん」と呼びました。「なんでフーちゃん」って、他のクラスの子はよく聞かされていましたが、それは、私の苗字の「赫」は中国語での発音は「ふー」と似ているからです。今、私は新クラスに入りました。最後まで、もとのクラスメートと同じクラスにすることができませんが、一緒にいる間の思い出と感情は心の中に強く残っていて永遠に忘れないと思います。新クラスに入り、まだ新しい友達ができました。やっぱり人生においてはいっぱい出会えます。

帰国するまで、あと一ヶ月しかありません。でも私はまだ来たばかりのことを覚えています。まるで、昨日のことのようです。また、みんなに私のことを「フーちゃん」と呼んでもらいたいです。



留学の意味

桜丘高等学校／瀋陽市外国語学校

李 昀殊

LI Yunshu



まず初めに交流基金に自分の感謝の気持ちを表させて頂きます、日本での月日は巡って一回り幼くて落ち着きのない私も、日本での生活のお陰で今の穏やかな私になることができました。

(一)

私は今回の訪日団に参加したお陰で、日本に来ることができました。ここでは国内にいた時に比べて、沢山の時間があります。

私は今までの慌ただしい日常を離れて、心を静めて自分自身を省みています。自分の失敗から様々な足りない所気付き反省しています。私はこのようなことに気づきました

「人間はどんな些細なことにも、おごり高ぶったりあわれたりしないように心がけ、謙虚で真剣な態度でいるべきだ」

(二)

歴史の上で、中国は日本に侵略されたことがありますので、一部の中国人は日本人に偏見を持っています。でも訪日前、王連義先生は私たちに「敢えて自分の苦手な人に教わる民族は偉大な民族です」と言いました。

中華民族進歩がこれまで以上進歩する為には、是非

勇気を出して他の民族と向き合うべきです。自国の現状を認識せず楽観的なばかりしてはいけません。私たちの国が侵略されたのは、つまるところ当時の民族が他国に遅れていたからです。

(三)

今回の留学のチャンスの為に国内での生活を捨てました。留学中に迷いもありましたが、向こう岸に立つ私は今足を止めて振り返ってみると、今まで歩んで来た歩みが見えてくる、道に咲く花も有れば、棘を持つ物もある。応援も有れば、挫折も有った。これらが有ったこそ、私は今まで持つ物全てを大切に思えるようになった。高く登り、遠くへ行く、世界に見られるのではなく、私は世界を見る為です。これが留学の意味だと私は思います。

今回の留学では、ある人は残ることを選びます、それは私たち最後の決意だから、たとえ上手で行かなくても、きっと後悔しません。ある人原点に戻ります。他人にして見れば、私たちの旅は無意味だろう、それでも彼らしか知らない、今まで 何を得て来のかを。水を飲むが如き、冷たいか否かは本人にしか分かりません。

この平和交流の為に、我ら勇敢で勤勉、偉大な民族同士、これからも友好を保ち続けて、私たち交流の架け橋の責任はどれほど重大ことか！



若いうちに、旅立ちましょう

三重高等学校／成都外国語学校

李 顔秀

LI Yanxiu



「可愛い子には旅をさせよ」という諺があります。これは親から見た立場の諺です。子供の視点からは「私たちは、若いうちに旅立つことが大事だ」との意味だと読み取れます。私はこの諺が正しいとずっと思っていました。

親に頼りたくはないけれども、親から離れがたくもある年頃に、一人で異国へ旅するのは大きな意味があるとも言えます。旅の中で、数え切れないほど多くのものを獲得できます。旅で得たものが例えつらいものであっても、それを経験するのも成長ではないでしょうか？どのようなものであれ、経験は未熟な私たちには、大変貴重だと思います。

では、今回の旅で、私は何をすることができたでしょう？この10か月の間、私が何を得たのかを、ここで振り返ろうと思っています。

まず、「感謝の気持ち」が第一だと思います。「感謝」は、思っていたより重いです。「一人子政策」のため、唯一の子供の私は、愛情を親から多くもらいました。今までの人生では他人の厚意を当たり前だと思ってしまったことも少なくなかったです。この旅で、知り合いにも、見知らぬ人にも、いろいろ助けていただきました。迷惑をかけたこともあります。何もできない私は、恩を返せないこともたくさんあります。それらの方々の厚恩をありがたくいただき、今は一生恩を忘れませんとしか言

えません。

それに、「責任」というものの重さも初めて味わいました。「心連心」に参加する前に理解していましたが、「中国の高校生」として、「日中関係のかけ橋」になるという「使命」を、常に心得ていなければなりません。責任の本質は、「自己中心」から脱出する行為だと思います。責任感を持って行動するのは、社会人として、基本だと思います。

また、「受容性」の大切さも分かるようになりました。外国で暮らし始めて、「異文化」の存在を切実に体験しました。価値観の違いに気づいて初めて、世界の広がりを実感するようになりました。人々の考えはそれぞれちがっています。その違いが多様な世界を構成しています。他の人の考え方を理解しようとすることはとても大切だと思います。

この旅で、私はたくさんのことを勉強することができました。「万卷の書を読み、万里の道を行く」というのは、そういうことかなと思います。

旅で、私はいろんな人と出会い、お世話になり、感動しました。それはなによりも貴重な経験だと、私は思っています。

みなさん、若いうちに、旅立ちましょう。まだ情熱があるうちに、旅立ちましょう。



蝉時雨遙か すだれ越しに

立命館宇治中学校・高等学校／済南外国語学校

劉 氷森

LIU Bingsen



「蝉時雨遙か すだれ越しに 水を打つ夏の夕暮れ
石が川面を跳ねるように ときめいた君を思っ」

イヤホンから耳に入ってきました。学校への道で、
蝉がジイジイと鳴いています。もう夏に入りました。一
年間の留学生活ももうすぐ終わってしまいます。

去年の9月5日、初めて宇治に着いた日のことを今
でもまだはっきりと覚えています。その時まで宇治につ
いてのイメージは『抹茶』しかありませんでしたが、そ
の時から、僕と宇治および立宇治の縁が始まりました。
宇治に着いた後、すぐに寮に行き、寮のみなさんと
出会いました。その時の僕は、何もわからなくて胸が
ドキドキしていました。しかし、寮のみんなはやさしく、
いろいろ教えてくれて、新しい環境に直面する緊張感も
どんどんなくなっていきました。今は寮から出ています
が、六時半からの晩御飯、八時の門限、毎朝ハウスマ
スターが叩いてくれる目覚まし代わりのドアの音、ハロ
ウィンとクリスマスのパーティー……そして、寮生のみ
んなの笑顔が、今でもずっと頭に浮かび上がってきます。

学校での思い出もいっぱいできました。学校に来た
ばかりの頃はちょうど興風祭で、この一年間での初め
での学校行事でした。僕のクラスは『人生ゲーム』をや
って、結構人気でした。興風祭の帰り、学校で見事なま
でに澄んだ秋の夕焼けを見たことをまだ覚えています。
毎学期、期末テストが終わった後、学年行事がありま
す。二学期は逃走中、三学期は球技大会でした。どっ
ちも半日しかなかったですが、なかなか面白かったです。
新年度に二年生になって、すぐに二日間の合宿を経験
しました。一日目は何十キロも歩き、二日目は大雨で
頭から足の先までびしょ濡れてしまいました。しか
し、そんなことも今となっては本当に楽しい思い出です。
5月の体育祭では初めて騎馬戦に出ました。その日の
太陽の光は眩しかったけれど、その光の下で僕は心か
ら楽しみました。まだまだ数え切れないほどの思い出
があります。これらの思い出は僕の一生の宝として大切
にしていきたいです。

中国にいたときはあまり体を動かさなかったの、日

本では運動をしたいと思い、日本の文化も体験できる
剣道部に入りました。先日、部の仲間と大会に参加し
ました。最後に負けてしまいましたが、みんなと一緒に
努力してきて、本当に感動しました。先生はいつも優し
く教えてくれました、部員のみんなも励ましてくれたり、
熱心に教えてくれたりしました。それは心からありがた
いと思っています。中国に帰っても、また剣道が続けら
れるように頑張りたいです。

この一年間、いろいろな人から感動をもらいました。
いつも僕のことを気にかけてくださる先生方、廊下であ
いさつしてくれたり、“ni hao”と話しかけてくれたりし
た生徒たち、一緒に遊んだり勉強したりするクラスメー
ト、できることなら何でもしてくれた親切なホストマザー
の福田奈津子さんなど、皆さんにお世話になりました。
僕は本当に心から感動し、感謝しています。

一年間しかなかったですが、立命館宇治高校と、そ
こにいるみんなと深い絆を結ぶことができました。み
んなと出会えたことは今までで最高の運であると、最
近強く感じています。また、日本で会えることを願っ
ています。



自分への手紙

大阪府立夕陽丘高等学校／天津外国語大学附属外国語学校

梁 方舟

LIANG Fangzhou



2015年夏休み中の自分へ

おはよう。この手紙をもらって、びっくりするかしら。日ざしのいい朝、起きたばかりで、ゆっくり牛乳でも飲んでいでしょう。ここは今7月の初めで、あなたにこの手紙を書いています。

あなたは二週間後、交流基金から知らせと書類をもらえます。行く先は大好きな京都ではないですが、この一年間、絶対いい思い出になることを保証します。

一ヶ月後、あなたは故郷を離れて、大阪に行きます。ホストファミリーはすごく優しく、いろいろなところに連れて行ってくれます。天橋立、琵琶湖、彦根城など。夕陽丘もいい学校で、先生も生徒も親切です。分からないことがあったら、みんなに聞いたらいいですよ。言葉や文法を間違ってもいいから、もっともっとしゃべってね。ここのホストファミリーと学校に来れるのはほんとに良かったと、私は思いますよ。また京都で、劉くんのホストと仲良くなって、いっぱい友達ができます。楽しみにしてね。

バドミントンのラケットを持ってこなくてもいいです。なぜなら、あなたはバドミントン部をやめて、茶道と書道をやり始めたのです。そのおかげで、自由な土日、仲のいい友達と二つの習い事ができます。それと、京都で日本舞踊を習うチャンスがあります。踊りはずっときょうみがありましたが、太っているからと試す勇気がありませんでした。これからは、もっと自信をつけてね。

また学校で、友達と一緒に合唱コンクールや体育祭に参加し、遠足に行き、初めての通訳体験もできます。京都でできた友達と、さ織物と和太鼓の体験に行ったり、時々パーティーをしたり、楽しいですよ。みんなが踊りの発表を見に来てくれたとき、すごく感動しました。大阪、京都に詳しくなり、文化と歴史の勉強にもなって、初めてのことがいっぱいできますよ。

この一年間、あなたは日本語を勉強すればするほど、自分がまだまだだと思うようになりますが、尻込みしな

いで、頑張っていってください。夢はあなたにとって、一番の宝物ですから。

一年後、あなたは日本のホストファミリー、友達、十期生のみんなと別れて、故郷に帰ります。みんなで一緒に盛り上がるときもあり、一人で寂しいと感じる時もある。笑ったり泣いたりしてきて、今のような複雑な気持ちは一度経験してみないとわからないです。

このような一年は、あなたの期待どおりですか。

では、話はここまで、頑張ってきたあなたにありがとう。これからも一緒に頑張りましょう。

2016年7月 大阪



中国人留学生として

清風南海中学校・高等学校／東北育才学校

韓 東学

HAN Dongxue



「中国からの留学生と日本の学生が一番大きな違いは何ですか？」

これは、僕が今のクラスのLINEグループでみんなに出した14問のうちの一つです。その14問は、僕が日本人の中国に対する認識を調査するために作ったアンケートです。

回答を見れば、半分以上の友達は、「中国人留学生韓くんしか知らんから何とも言えんけどこっちの学生に比べて積極的だと思う」と答えてくれました。それ以外に、「日本よりも教育が進んでいる」というような答えも結構多かったです。そんな答えを見て、僕はちょっとうれしかったです。中国人留学生の僕にとって、これは最高の褒め言葉です。

清風南海高校の最初の中国人留学生となり、一年間の留学生活に対する憧れと共に、周りの人たちにいい印象を残して、次の中国人留学生が順調に来られるように力を尽くすという使命感も強まりました。この学校で、僕は日本の高校生活を体験し、充実した一年を過ごしました。

清風南海は偏差値が高い学校で、学業はすごく大切だとされています。中国人留学生として、僕は自分なりに頑張っていました。授業で積極的に発言し、テストで自分が納得できる成績をとるだけでなく、自分が得意な英語で、周りの友達が質問をする対象になりました。それと同時に、僕もクラスメートたちの頑張っている姿に感動し、刺激を受けました。例えば、僕の今のクラスには、毎日学校終わってから塾に行き、時には夜中4時まで勉強して、朝5時半に起きて、学校の休み時間さえも常に勉強している子がいます。

中国人留学生として、僕は日本の学校の特有の文化「部活動」を体験しました。僕が誇りを持つ囲碁(将棋)部や、鉄道模型を作る鉄道研究部や、英語の会話能力を鍛えるESS(English Speaking Society)など、いろいろ参加し、体験しました。その中で、特に僕に大きく影響を与えたのは、去年12月から吹奏楽部の一員としてアルトサックスを吹くことです。中国にいたときにも数年間サックスを習ったことありますが、楽団の一員として役割を果たすのは初めてです。最初に楽譜をもらったとき、自分の楽譜はメロディーと違いすぎてびっくりしました。今の僕には分かります。メロディーを演奏する人もいるし、そうでない人もいるが、どちらも同じように重要であることを。誰でも楽団が楽団になるために不可欠です。みんなが頑張っている自分の役割を果たしてからこそ、いろんな音が合わさって壮大な音楽になります。

ある日の練習の後、僕はチューバを吹いている中学校の女の子に話かけて、その子が中一の時、吹奏楽部のコンサートを聴いて感動して吹奏楽部に入り、それからチューバの吹き方を習い始めたとか聞いて、ちょっとびっくりしました。その後いろいろ聞いてみると、吹奏楽部の半分以上のメンバーは入部をきっかけに今吹いている楽器を習い始めたらしいです。先生ではなく、ずっと先輩が後輩に教えて、何

十年間にわたってだんだん伝えていくことは、僕はすごく感動させました。

吹奏楽部に入ってから、茶話会、中学入学式、スプリングコンサートなど何回かの演奏に参加したことがあります。みんながそのわずかな何分間の本番の演奏のために一生懸命練習したのも、演奏の前に椅子を運んだりチューニングしたりして、みんなが同じ目標に向かって互いに助け合って全力で頑張ったのも、僕を感動させました。僕もその一員としてプライドを持っています。僕は日本留学試験を受けるため高石市吹奏楽フェスティバルに参加できなくて、結構よくよしました。

中国人留学生として日本に来るのは、日本の色々を体験するためだから、いくら自分が慣れていないことであっても、周りの友達と同じ行動をとらなければなりません。10.8キロのマラソン大会を完走した時も、整髪検査で前髪が長いと言われて切った時も、体育大会でエッサッサをやるときも、「郷に入っては郷に従え」のような気持ち持つべきだろう。

中国人留学生として、どこに行っても中国を代表し、いつでも周りの人に中国人に対する印象を与えています。日常会話で友達に中国と日本の違いを紹介する時も、クラスで「中国の学校」をテーマとする1時間以上の講演をする時も、高校と中学校の保護者会で僕が参加している心連心日中交流プログラムを紹介する時も、周りの日本人が「中国、中国人、中国人留学生」を理解できるように自分なりに努力をしています。

しかしながら、日本人が中国に対する認識は、僕の想像以上に誤解が多いです。日本のテレビで流される中国に関する情報はほとんど空気汚染、汚職事件、反日デモなどネガティブなものであり、歴史の教科書にも南京大虐殺、731部隊などが載っていないらしいです(だから今の日本人は「なんでか分からんけど中国人に嫌われている」と思ってしまふ)。調査によると日本人の中で中国に対して「親しみを感じない」と答えた人の割合が83.2%に達したそうです。僕のクラスにも、中国国旗を書くとき左上に星を三つしか書かなかった子がいました。中国人留学生として、このような現状を変える責任をより感じるようになりました。でも、アンケートの最後に「中国や中国人に対して初めは良いイメージがなかったけれど、変わった」と友達から聞いたとき、自分の努力が認められた感じがしました。

この一年間、中国人留学生として、いろんな人に出会い、お世話になり、いろんな体験をし、いろんな思い出を残しました。僕の人生にとって掛け替えのない貴重な一年でした。最後に、このチャンスを与えて下さった日中交流センター、一年間お世話になった学校の先生とホストファミリー、およびずっと支えて下さった方々に感謝する気持ちを伝えたいと思います。

朝は必ず来ます

奈良市立一条高等学校／上海市甘泉外国語中学

邵 偲瑩

SHAO Siying



日本に来て約一年間で、今までも来る時の気持ちを覚えています。飛行機の窓から外を見て、建物などが全然見えなくて、目の前は真っ青な空と白い雲だけありました。もう中国からだいぶ離れているなあとちょっと不安でした。初めての日本、初めて家族と別れて生活することを心配しました。でも、不安より期待している気持ちの方がもっと強かったです。一年後のわたしはどんな人になるかなという期待もありました。

北京から東京まで飛行機は3時間ぐらいかかって、あっという間に成田空港に着きました。東京で5日間の研修がありました。研修が終わってから、わたしはすぐ次の一年間を過ごす奈良に行きました。初めて学校に行く時、ホストファミリーが連れていってくれました。初めての授業は現代文でした。メモをとる時、先生がそばに来てくれて、「漢字書ける?」と聞かれました。とても優しい先生でした。一条の人文のクラスに入って、みんなと一緒に人権講演を聞いたり、フィールドワークに行ったりして、楽しかったです。

わたしは上海出身です。この間学校のフランス人の先生と話していた時、二人とも「奈良が好き」という話をしました。上海もパリにもぎやかかなところですが、奈良は静かでとても古い町です。最初の頃、みんなに言われて「奈良に来たのはすごいことですよ。」と言われました。確かに奈良は日本の古都として、歴史的なところがたくさんあります。たぶん、日本人のイメージでは中国人は唐招提寺が好きですが、わたしは「薬師寺」が大好きです。正月の時初詣でに行き、春に桜を見に行きました。空が青くて、風も吹いてすごく良いところだと思います。

わたしはホストファミリーとよく遊びに行きます。11月に一緒に神戸の中華街に行き、一泊泊りました。12月には京都のお寺に行き、紅葉を見ました。1月にはお母さんとお父さんの実家に行き、着物を着てもらいました。2月には梅を見に行きました。3月には吉野にお花見に行きました。4月には姫路城に行きました。ほんとうにいろいろお世話になって、ありがたいです。

日本に来て、「カルチャーショック」という言葉は何

度も聞いていました。確かに中国と日本は近くても、それぞれの文化があります。日本人はみんなの前であまり自分の考えや意見を言わない「曖昧」な文化です。わたしはアメリカ人の友達がいて、いつも彼女に教えてもらって「This is your life. You should open your mouth and talk to everyone.」どちらもすごく良い文化だと思います。それも文化の魅力だと思います。もし世の中に一つの文化しかなかったら、この世界も面白くなくなると思います。

日本に来て、いろんな友達ができて、いろんなことを教えてくれました。一条の元校長先生は人生にはぜったい辛いことがある。あなたはまだ17歳で人生はまだまだやで〜泣きたい時は泣いたり笑いたい時は笑ったりしたらいい。自分の選択を悔しいと思わなくていい。朝は必ず来るから。邵さん将来日本と中国のかけはしになってほしい。」と何回も言ってくれました。ですから、今のわたしは何があっても、ずっと「朝は必ず来ます。」と信じています。

わたしは時々ボランティアの通訳をします。何回も「どうしてボランティアになりたいのですか。」と聞かれました。日本に来ていろんな人のおかげで、今はそれほど立派な人間でなくても、一年前と全く違う成長したわたしになりました。ですからこれからはわたしも他の人たちのために何かをしたいと思います。

一年間お世話になりました。



一年間の振り返り

和歌山県立那賀高等学校／蘇州外国語学校
丁 依寧

DING Yining



もう6月になりました。

去年の6月、面接に合格して、日本に来るチャンスもちゃんともらって、この一年間を楽しんで過ごしました。まずは感謝の気持ちをみんなに伝えたいです。この一年間、色々お世話になりましたが、ありがとうございました。

初めて和歌山に来た時、ものすごい緊張した。全然話しかけられませんでした。幸い、周りの人々はみんな優しいで、すぐこっちの生活になれました。友達もすぐにできたし、授業も聞き取れるようになり、部活動をやり始めて、結構楽しんで日々を送りました。もちろん、日本語はまだまだ良くなかったの、悩む時もあった。その時、周りの人々から助けてもらって、めっちゃ感動しました。

日本で初めての部活動！私は「空手部」に入りました。練習には真面目に参加し、試合にも出ました。空手部にいた約5ヶ月の間、結構楽しんで過ごしました。そして、強く希望した「バスケ部」に入ってた。まず、練習の量が多かった。週に一回だけ休んで、土日にも休まずに、ずっと練習して。一生懸命オールコートを走って、パスして、シュートして、正直に言うと、しんどいと思います。自ら選んだ道だから、どうしてもやり続けたいので、い

つも一生懸命頑張って、色々身をつけた。

ここで、全く新しい授業を受けて、良かったと思う。勉強もどんどん慣れてきて、点数も次々上がってきて、嬉しいです。どんどん先生たちの話に慣れてきて、友達もできた。二年生になって、新しいクラスにはいって、すぐ全く知らないみんなと仲良くなった。

やっぱり日本人は中国人と違う。見た目はともかく、価値観とか、趣味とか、遊び方とか、本当に違います。色々体験して、自分自身に役立った。勉強と遊びを結びつけて、それは本当の勉強だと言える。

あと一ヶ月しか残っていませんが、毎日を活かして、また新しい挑戦をしたい。楽しんで過ごして、それは有意義だと言えます。自分もこの一年間、成長してたと言えます。異文化も慣れてきて、新しい世界を発見した。もしこのチャンスがなかったら、何もできません。

これからも日本語を勉強し続けて、上手に頑張りたいと思います。最後の最後、みんなに感謝の気持ちを伝えたいんです。この一年間、いつも助けてもらって、お世話になりました。本当にありがとうございました。これからもみんなの期待に応えられるように、自分の夢に向かって、頑張ります！



日本に来てからのいろいろ

岡山県共生高等学校／福州外国語学校

呉 嘉洛

WU Jiaming



もうすぐ帰るところですが、日本に来てからのいろいろなことが思い出した。

去年の7月、僕はこの「心連心」プログラムに選ばれた時、心はドキドキしていた。なぜかと聞くなり、僕はいいよこのずっと憧れていた日本に来るのができるから。

9月、北京から飛行機に乗って、海を越えて、日本の土地に立って、未知な土地で未知な人との生活が始まった。

日本に来て長い間で、いろんなことがあった。悲しいことも、うれしいことも、怒ることも、困ることもありました。自分の不完全で人との喧嘩もあったし、日本人のやり方が理解できなくて、留学生活の進む道を迷って帰りたいと思う時もあった。でも、今は、僕は日本にいてよかったと思う。だって、日本人といっぱい笑うことができたから。

この長い長い一年間の生活の中で、充実して、良い思い出ができて楽しかったのは「ホームステイ」だ。

お正月に行ったホームステイは、ホストファミリーのお父さんとお母さんがずっと年上だったから、非常に緊張した。でも、すぐに緊張しなくなった。お二人はとても優しくったから。

僕を連れて、山を登ったり、お城を見に行ったりした。初日の出を見に連れて行ってくれたのも、とても感動した。あとは、日本のお正月の準備も一緒にした。正月の飾りをつけたり、そば打ちに行ったりした。元旦には初詣に行って、お祈りをしました。そのほかにもいろいろ楽しかったこともありました。僕は今でも、これからも忘れない。この楽しい日々、その間であったこと、いっしょに作ったたこ焼き、ピザのおいしさ、初日の出を見るとき甘酒の温かさ、その布団の温もり、全て一生も忘れない。本当にありがとうございました、稲毛さん。

春休みのホームステイも、とても充実していて、大変楽しかった。石井のお父さんは天体観測が好きで、ちょうど僕も好きだったので、おしゃべりがはずんだ。お母さんも思いやりがあって、親切な人だった。ホームステイ期間中、僕はお母さんのお友達たちと黒滝山に上っ

て、久しぶりに息切れがひどくしたが、頂上に到着して大海を見渡せば気分はまさに爽快で、言葉で言い表せない感じだった。あと、僕はホームステイのお父さんと一緒に鴨方町の天文台を見に行った。そこで、アジアで最大の天体望遠鏡をみることができた。さらに、お父さんは僕を小学校の同窓会に連れていってくれた。みんな楽しく笑い合ったり、バーベキューをしたり、さくらと一緒に見た。心から嬉しかった。それに、幸運なことに一度ホストファミリーの日本でいった結婚式に参加して、日本事情についてたくさんのことを学んだ。見識を広げるいい機会になった。

このような素晴らしい体験をすることができて、ホストファミリーや先生たち、ありがとうございました。

日本に来たが、実は日本語はあんまり上がっていないかも、日本人とあんまり仲良くしていないかも、この日本のうつくしさが全部見ていないかも、うまくやっていないかもしれない。でも、日本に来て、いろいろなこと経って、僕はきっと成長したんだ。いろんなところで、今は表していないかも、でも未来のいつかきっといい役になる。この一年間の生活はきっといい思い出になります。



日本の留学生活

岡山県共生高等学校／ハルビン市朝鮮族第一中学

金 瑩順

JIN Yingshun



2015年9月1日、交流生として日本に来ました。その日、すごく緊張してどうすればわからなかったんです。まず、東京で研修してから、9月5日、各自の生活に移動しました。

校長先生といっしょに電車に乗って、岡山県新見市新見に来ました。到着して、周りを見た私はびっくりしました。なぜなら、山の中の町だからです。もっとびっくりしたのは学校も小さくて、学生や先生も少ないということ。中国の学校とは全く違う環境で、非常に心細い気持ちになりました。

でも、周りの人に助けられて、日本の生活にはだんだん慣れていきました。

部活に入りたいと思って、ボランティア部に入りました。先生たちがとても優しく、おもしろいので楽しく活動できました。ボランティアは、自分の利益を考えずにやるのですが、その面白さが初めてわかりました。

日本に来たばかり、一番幸運だと思うのは中国人留学生の秦先輩に会えたことです。先輩の細かい気配りのおかげで、私は日本での生活にすぐに慣れることができました。先輩は私にとって、先輩であり、友達でもあります。なぜなら、この世界に太陽が必要不可欠であるのと同じく、先輩はもう私の生活で欠くことのできない存在でした。でも、今考えると、彼女の存在は悪いところもあるのを分かってきました。私は私が日中交流のために来たということを忘れていました。このことを忘れたら、留学する意味がないのを分かりました。

大体半年間ぐらいいかなあ…先輩がいつもそばにいてくれたから、私は日本のクラスメートとコミュニケーションを取ろうとしなかったんです。正直、前半の留学生活では、日本の友達に声をかけられなくて…無駄に過ごした気がしてしょうがないです。毎日、ぼっとして、本当にたくさんのしたくないがあって、日本に来たばかりの新鮮な感じや初心をさっぱり忘れてしまったんです。毎日、自分は何をしているか、何をすべきか、何のためなのかさえ分からなくなっていました。今になって考えると、本当に恥ずかしいです！2016年になって私は反省しなければならないと思って、自信を変ろうと思って、やっと、クラスメートに声をかけました。今は日本

の友達もできました。本当にうれしいです！今、私のそばに、相談に乗ってくれ、支えてくれる友達と先生ができましたから本当に楽しいと思います。来たばかりの不満がなくなりました。

年末年始と春休みに、ホームステイに行く機会がありました。短い何日間ではありますが、いろいろ教えてくれたホストファミリーのお母さんとお父さんに本当に感謝しています。なぜなら、たくさんのことを初めて体験させてくれたからです。それに素晴らしい思い出をくれて感謝しています。お母さんとよくおしゃべりしました。『毎日を充実させ、自分のわがままを改善し嫌なことでもできるだけ学んで行くこと、自分のこと自分でする、時には楽しませ、時には悲しみ、成長することは痛いことが現実である、人間は逆境で成長ことができる』と、いいことをたくさん教えてもらいました。最後にお母さんと一つの約束をしました。その約束は私が「また日本にきたい原因をお母さんに話すこと」と、「日本に来たら必ずお母さんと連絡すること」です。この約束、私は絶対守ると思います！！

日本に来られたこと、共生高等学校の学生になったこと全部幸運だと思います。みなさん、ありがとうございます。



日本は優しい

広島市立舟入高等学校／武漢外国語学校

曾 静好

ZENG Jinghao



私からみると、日本は実に優しい国です。

日本に来たのは三度目、日本に来たことのある人たちの感覚と同じように、日本はとても優しい国です。

初めて日本に来たのは三年前。空は青く、空気もきれいと感じました。道を歩いている人たちはみな、充実した顔をしていました。知らないところに行き、歩いている人に道を聞いたら、相手がいつも優しく自分に道を教えてくれました。

日本は安全できれいな国です。その法律やルールなどは日本に住んでいる人にとってとても優しいです。貧富の差が激しくなし、誰にでも平等に学校に行けるし、病院での治療も、誰でも受けることができます。

心連心のプロジェクトのおかげで、私は日本にきて、日本の高校生たちと友達になりました。広島舟入高校にきて、初めての日に、クラスの子と先生たちは私に「何か分からないことがあったら言ってね」と言ってくれて、とても感動しました。今でも、「そうちゃんが帰るまで、自分も頑張って日本語を教えるよ」と言ってくれた友達がいいます。

球技大会の時、サーブが失敗したとしても、みんなが「頑張れ!」「集中!」と応援してくれました。

ホストファミリーもとても優しいです。ずっと人間としての基本を教えてくれました。どうやって正確に電車にのるか、どうやって人と接するのかをいっぱい教えてくれました。

ますます日本にきて、広島にきて、舟入高校にきてよ

かったと思いました。

帰りの日が迫ってきて、寂しく思いました。剣道部の先輩たちも引退しましたし、クラスの子たちは「残りの時間、もっと一緒に思い出を作ろう」と私に言ってくれました。この一年間のすべてを思い出したら、急に涙が出てしまいました。

また、日本に来ますよ。と、私は小さく願いました。

大学は、日本の大学に行きたい。いい大学に受かるのは難しいことですが、頑張ります。日本に来る前に、まだそう決まっていなかったが、日本で一年間の留学生活を送って、私は日本の大学に入りたいと思い始めました。日本はとても優しい国で、私にいろんなことを教えてくれました。

最近をよく思います。私はこの一年間、何を身につけたのだろう。コミュニケーション能力は高まりました。異文化を理解できるようになりました。日本語力はもちろん高まりましたが、人間としての生活力、または、一人の国際人としての基本を身につけたのは私にとって一生掛け替えのない宝物です。それを教えてくれたのは、日本と日本のクラスメートや先生、ホストファミリーです。

本当に、ありがとうございました。「ありがとうございました」を何百回も言いましたが、まだ足りないと思いました。

また日本に来ます。また、会いましょう。



叶えた夢

龍谷高等学校／済南外国語学校

包 雲清

BAO Yunqing



面接結果を聞いた時の気持ち、いまだにも覚えてる。目の前に未知の世界の扉が開いたように、私の心の中は興奮と期待で満ちていた。

日本の高校生の生活に憧れていた。アニメの中で、きれいな制服を着ている高校生たちが桜の木の下で歩いている姿が幻くて、夢みたいに素敵だと思った。日本で一週間の旅行はその夢を満たすことができなかった。むしろその衝動を行動に移す勇気を与えた。ただ日本の高校生になってみたいという単純な夢で、私は日本に一年間留学するのを決めた。

正直、留学するのを決めたときすこし緊張したけど、全然心配はしなかった。むしろ自信満々で、わくわくしてた。そう、自分が友達作りのが上手とはいえないけど、友達がいなくて困ったことは一度もなかった。それに寮に住むのに慣れたので、親に離れても寂しいと思うことも一度もなかった。逆に、一日も早く日本に飛び行きたかった。今考えたら、その時の自信はすごく甘かった。でもその自信のおかげで、私は積極的にその夢の中に突っ込んだ。

今まで本とテレビの中で習った日本についてのすべてが、現実生活の前であまり使えなかった。女子高生がかわいいものが好きなのは知っていたが、ディズニーのお姫様たちにはまるとは思わなかった。日本人たちは刺身が好きなのは知っていたが、釣れた魚に醤油をつけてそのまま食べるとは思わなかった。いろいろ新しいこと

を挑戦するのも楽しかった。資料から見ると全然違って、自分の手で日本人の生活に触れるのに、私が感動した。

それに、一番難しいことが女の子たちの中に入るとも思わなかった。そこで私初めては違う文化によって人たちの性格も違うのを意識した。女子たちは何をしても必ず固定なメンバーと一緒に行動するのは、私から見ただけ無意味に集合するのに過ぎない。ほかの女子から見たら、私の行動が独特で、理解できないんだ。今まで中国で実践した友達を作るいい方法は、ここでは通じなかった。自分が夢見た留学生活とかなり違ってた。みんなと出来る限り同じことをするのに、毎日頑張って話しかけるのに、なんで周りでなんでも喋れる友達はなかなかできないだろう？そういう努力に疲れて、私は悩んでた。

いつの間に私の日本語がうまくなった。友達ともだんだんいっぱい喋れるようになった。女子たちの考えも少しずつ分かるようになった。やっと親しい友達ができた。でもわたしは別に彼女たちと同じになりたいわけではない。彼女たちの考えを尊重してるだけだ。不思議かもしれないが、それは私がこの一年間の留学生活で習った一番大事なことだった。それに、友達作りは一日でできることじゃないと分かった。長い時間の付き合いで作った繋がりこそ、二人を繋げるものだ。最初の単純な夢で始まった旅が、こういう成長を得られるのに、私は周りの人たちに感謝してる。思ったのと違うが、私の夢は確かに叶えた。



キラキラ光る思い出たち

岩田中学校・高等学校／天津外国語大学附属外国語学校

孫 超凡

SUN Chaofan



長いようで短い11ヶ月の留学生活も終わろうとしています。この11ヶ月の間で僕は自分の成長に気がつきました。最後の作文は、留学の集大成で今まで、見てきたこと、感じてきたこと、発見したこと全て振り返ってこの作文に綴りたいと思います。

初め、留学の行き先のプリントを見て僕は、今でも忘れられない衝撃を受けたのが思い浮かびます。僕の中のイメージでは、東京か大阪などいわゆる都会での留学生活が始まると思いましたが、プリントには「大分県 大分市 岩田学園」と記していました。大分県がどのような場所なのか分らなかったのでインターネットで調べると予想とは違っていました。ついに、留学初日大分県に到着した僕は、大分の空気、天気、雰囲気、全て自分に合っていると心のどこかで思うことができ、これからの留学生活に期待に胸を膨らましていました。そして、僕は寮での生活だったのでしっかりと挨拶して、カタコトの日本語で話しました。寮の友達も玄関まで走って迎えに来てくれたことも鮮明に覚えています。初めは、言葉の壁や、文化の違いで相手にしてくれなかった部分も多々ありましたが、運よくAPUコースでもあったので台湾から来てくれたハーフの人と出会うことができました。何でも疑問に思ったことや、分らなかったところを聞くと中国語交りの日本語で教えてくれたので、

日本語を覚えたり、生活リズムなど順調にうまくいくことができたと思います。

しかし、長い留学期間中には辛い、苦しい部分もあったのが事実です。誰でも経験すると思いますが、ホームシックにやられてしまいました。「帰りたい」、「やめたい」、そんなことを夜一人寝る時に考えていました。また、寮での生活でもあったので、先生達の指導や決められたルールに従うこと、この頃まで嫌気をさしてきましたが、いざ終わりが近づくと達成感や感謝の気持ちが芽生えてきています。そして、中国では遊び程度だった、バスケも日本では部活といって本格的に活動していたのでついていけず、困った時期もありました。楽しいこと、大変だったこと今比べてみると大変だったという割合は大きいと思います。でも、この留学を通して自分のメンタル面や忍耐力、日本語力、そして、コミュニケーション能力など全てにおいて留学初日より遥かに大きく成長したと実感しています。今では、もうずっといたい、みんなと卒業したいなんて思える日が来ています。縁あって出会えた仲間や先生方、そして、留学をサポートしてくれた交流センターの先生方。また何よりも応援してくれた家族に感謝の気持ちをこめて、ありがとうございましたと伝えます。夢だったこの留学生活、実現できて僕は本当に幸せ者だと思います。とても、楽しかったです。



熊本大地震について

熊本県立宇土高等学校 (2015.9 ~ 2016.4)
立命館宇治中学校・高等学校 (2016.5 ~ 7) /
天津外国語大学附属外国語学校
侯 天妍

HOU Tianyan



光陰矢の如し。最後の東京研修までもう一ヶ月しか残っていません。この一年の留学は今までの人生の中で一番豊かだったと言っても少しも言い過ぎではないと思います。知識を学んだり、自立力を高めたり、日本人の友達を作ったり、お祭りに参加したり、色々な所に観光に行ったりして、多くの楽しい思い出を作りました。しかし、この一年で最も貴重な思い出となったのは、熊本大地震に遭ったことに違いないです。

地震は「黒色」です。避難所の夜は非常に寒くて眠れませんでした。初めて地震に遭って、異国で一人でたいへん寂しかったです。5分に一回の余震はみんなの元気を奪われて、心身ともにぐったりさせられました。水も食物も足りなくて、待つことしかできませんでした。ホストファミリーのワンちゃんはまだ小さいから、自分の気持ちを伝えるだけで表せるのに。いつでも大きな音で警報を鳴らす携帯は時限爆弾のような存在で、本当に神経をすり減らしました。やっと一時避難の情報を受けたにもかかわらず、大雨で延期となった時のやり切れない気持ちは、今でも思い出したくありません。

しかし、地震はまた「オレンジ色」です。地震発生以来、ホストファミリーのお兄ちゃんと妹が付き添ってくれ、お父さんとお母さんは笑顔や温かい言葉をくれてその全てが私を安心させる力になって、勇気をいっぱいもらいました。そして、wechatや電話で中国のみんなが心配してくれる気持ちを感じて、すごく感動させられました。心連心の友達は電話をかけてきてくれて、何も言わずに泣き始めました。その余震の止まらなかった午後、いきなり、すべての寂しさや怖さが消え、周りに温められた心しか残りませんでした。そして、私は一人ではないのだと強く感じました。愛されているからです。

4月17日、地震が発生してから四日目に豊川先生と堀先生が熊本西鉄まで迎えに来てくれて、神奈川県に一時避難しました。心連心の先生たちや神奈川のホストファミリーのおじちゃん達には本当に感謝の気持ちで

いっぱいです。皆さんのおかげで私は精神状態をうまく調節させることができ、楽観的に留学生活を続けられるようになりました。

ゴールデンウィーク中に一時帰国させてもらい、今私は京都の立命館宇治高校に転校して、留学を続けています。新しい学校生活は熊本といろいろ違うところがありますが、元気いっぱいに頑張っています。熊本のお母さんも時々lineで連絡を取り、向こうのみんなの元気な姿を見せてくれて本当に嬉しくなります。先週の日は京都のホストファミリー宅で餃子パーティーをしました。中国人では知らない者同士だった六人が異国で集まって、なんと不思議なことだろうと思いました。

すべてのことは良くなりました。大きな災害は天意で、誰にもどうすることもできません。留学の一年でこのような独特の体験をしたことは、生きていく力を与えてくれたのではないかと思います。



イエス様はいつも私とともにいる

活水高等学校／東北育才外国語学校

何 雨棋

HE Yuqi



一年間という日はまたたく間に過ぎ去ります。記憶はまだ面接の時で止まって、初めの東京研修も昨日の事みたいです。もうすぐ七月になり、日本の友達と心連心の仲間たちに別れなければならない時間です。最後はこのレポートを書いて、日本の美しさを思い出す、記録にしたいと思います。

私は、「活水高等学校」という学校で留学しました。この学校は、女子校で、イエス・キリストを信じています。みんな毎日礼拝を守って、主に平和を祈りました。「すべて神の栄光を表すためにしなさい」は我が学校の校訓でした。

朝ご飯、朝の礼拝、終礼、晩ご飯、晩祷、違う時間にそれぞれの礼拝をささげました。水曜日は「合同礼拝」、日曜日は「聖書輪読会」がありました。「合同礼拝」では先生の話聞いて、イエス様の祝福を受け取りました。「聖書輪読会」は聖書の箇所を一つ選んで、みんなで輪読しました。日々は本当にイエス様から守られている感じがしました。週に一回「聖書」という授業がありました。この授業で、みんな聖書の物語を習いました。「ルカによる福音書」は私が大好きな箇所でした。聖書の中には面白い話がたくさんあります。聖書

を読むたびに、人生の哲学を学ぶことができました。

朝の礼拝と終礼の時、祈りだけではなく、讃美歌も歌いました。私は歌うことが苦手で、最初は声も出せませんでしたが、毎日練習して、どんどん大声で賛美できました。しかも讃美歌の中で、昔からずっと気になった歌が見つかりました。それがとてもうれしくて、その日から讃美歌を歌うことも好きになりました。

学校にもいろんな活動があります。例えばクリスマスの時、毎日お世話になっている、近所の方々に讃美歌を歌いました。また、5月27日には花の日礼拝がありました。生徒たちは花を持って学校へ行きました。その集められた、たくさんの花は病院の患者さんにあげました。このようなキリスト教の伝統の記念日にはたくさんの人に恵みを与えました。

昔、私は宗教を信じる人たちの気持ちが理解できませんでした。けれど、この学校に入ってから、少しずつその人たちに理解しました。イエス様は、優しく、熱心で、ときどき厳しい人だと思いました。ここでたくさんのことが習いました。イエス様も、まるで私の先生のように。私は心からイエス様に感謝しています。イエス様はいつもあなたとともにいる。



初めて習い、実感した言葉

日章学園高等学校／石家荘外国語学校

李 東哲

LI Dongzhe



留学期間の11ヶ月間は、あっという間に経ました。この11ヶ月間で、多くの単語を覚えましたが、覚えても、意味がはっきりとわからない単語もあります。しかし、時間の移り変わりと共に、単語に潜んだ意味を次第に悟りました。

黙想

「黙想!」と授業が始まる、1分前にクラスの委員長が言いますが、黙想という単語は、日本に来て、授業で初めて習った単語です。辞書に、「黙っておもいにふけること」と説明されています。今でも、その単語を初めて聞いた時のことが、記憶に残っています。初登校の日の一時間目の前に、「黙想!」と委員長が言った時、「黙想?黙想って、何やったっけ?なんでみんなめをとじて、何も言わんと?」と、顔をあちこちに向けて、不思議に思いましたが、咄嗟にクラスメートのまねをして、目を閉じました。すると、こころが静かになった感じがしました。その後、黙想をする理由が、授業の前に集中力を高めるということだとわかりました。

ドンマイ

「ドンマイ!」と、試合などで、よく言われます。辞書には「英語のDon't mindから。心配するな、気にするな」と説明されています。試合中、ミスをして、自分で自分を責めた時、仲間からの「ドンマイ」を聞くと、やる気を取り戻しました。ドンマイという言葉の中に隠されているのは、チームの団結、仲間を励ます気持ちだと分かりました。

ボランティア

去年の12月、第29回青島太平洋マラソンボランティアに参加しました。初めてのボランティア活動でした。その時に、私は給水所の担当をしました。友達と一緒に、給水の準備をしながら、「頑張れ!」と応援しました。辞書には、「自由意志を持って社会事業・災害時の救援などのために無報酬で働く人」と説明されています。実際に体験すると、書かれている説明がもっと詳しくわかりました。ボランティアという言葉には、他人の為に

頑張るという精神が潜んでいると思いました。

全校応援

「日章イレブン、我らと、いつも共に」と、サッカーの決勝戦で、一生懸命応援しました。始まって10分後、日章の選手がペナルティエリアで反則して、相手にペナルティキックを与えてしまい、相手の選手はゴールを決めてしまいました。でも、私たちは諦めませんでした。結局、逆転して、四対一で勝ちました。全校応援とは、その言葉が示す通りに、「学校全体で応援する」ということです。応援は、辞書に「(競技・試合などで)歌をうたったり声をかけたりして味方を元気づけること」と説明されています。つまり、試合は選手だけではなく、応援団も同じ一つのチームとして、戦うことだと感じました。

一つの単語は、国によって、文化によって、共通しているところもありますが、含まれている、潜んでいる意味がそれぞれ違うところもあると思います。その国独自の意味は、その国の独自の文化の背景があってこそ、実感して理解できるものだ」と認識しました。

私は、日本で、この11ヶ月間で、学校の先生や友達のおかげで、言葉を実感しました。本当に、ありがとうございました。



いつか、また会いましょう

神村学園高等部／北京市月壇中学

劉 雅軒

LIU Yaxuan



月日が過ぎるのは早く、いよいよ日本とさよならです。一年前親と離れて、初めて会う30名の同期生と日本に着いたばかりの記憶は、まだ昨日のようです。日本に来る前四年間も日本語を勉強しましたが、日本社会と日本人に対する知識はただ教科書に留まっていました。この一年間日本の家庭に入って、日本の学校に通わせてもらって私と日本との絆はますます深くなってきました。私が寂しくてどうしようもない時にはたくさんの日本人が助けてくれました。日本でのすべての出会いは、私の人生のかけがえのないものになりました。

「吹上浜の白砂に、海原青く…」いつもこの美しい校歌に感動させられました。

神村学園に来たばかりの時、私は知らない人に声をかけるのが苦手だったけれど、先生方とクラスメートがいつも優しくゆっくり話してくれました。たまに中国語で「ニーハオ」と言われた時もほっとしてすごく嬉しかったです。体育祭、文化祭、遠足など色んな行事を通じて、みんなとだんだん仲良くなりました。私の英語はあまり上手くないものの授業では、先生から教えてもらって、少しできたら、先生は笑顔で褒めてくれます。私も全然わからないから見たくないという気持ちからやればできるという考え方に変わりました。神村学園の「やればできる、必ずできる、絶対できる」の精神は私にどんな時でも諦めないということを教えてくれました。神村学園が大好きです。

この一年間、ずっと不器用な私に自分の子供のような愛を与えてくれたホストファミリーの皆さんにも感謝いっぱいです。破れた靴下を縫いつくらしてくれるお母さん、雨で濡れた革靴を乾かしてくれるお父さん、いつも隣にいるみきちゃん、面白い鹿児島弁を教えてくれるおばあちゃん、楽しい話をしてくれるお兄ちゃんたち。この家族と出会えて本当に幸せでした。日本語があまり上手ではない私と話すとき、みんなはいつも優しく説明しながら、話してくれました。クラスや部活動での人間関係の悩みを相談したら、家族は私の立場から、一番いい方法を考えてくれました。ニュースなどを見る時

にも、いろんな意見を聞かせてくれました。ホストファミリーのおかげで、将来私はぜひ中国と日本の平和発展に貢献したいと思います。この一年間、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。沼田家の皆さんこれからもずっと愛してる。

この一年間で辛いことももちろんありましたが、別れが近づくと思わせるのは出会った人たちの可愛い笑顔しかありません。私の人生の中では短い期間だけでも、ここでたくさんの方々に会って、そして、成長した自分に出会って一生忘れない留学生活になりました。最高の思い出を作ってくれた方々に感謝の気持ちを伝えたいです。「千里の道も一歩から」これからも私は一歩一歩夢に向かって頑張っていきたいです。

お世話になった皆さんいつかまた会いましょう。ゞ(≧▽≦*)o



その美しいところに、君達がいるから

鹿児島県立武岡台高等学校／済南外国語学校

張 戈

ZHANG Ge



若いから、早く出発しなければ!見たことがない場所、食べたことがないもの、会うべき人たちに会おうため、もっと美しい世界を体験する為、まだ若いうちに、旅立とう!

まるで昨日から日本に来てこの学校に入ったばかりのような感じ、本当に、光陰矢の如し。

自分の意識もぼんやりしているあいだに、「さようなら」とかを言うなんて、あまりにもせつなすぎます。私はどんなにかごしまが好きでしょう。最初来るときの不安や躊躇も、すでにかごしまの暖かさで完全に溶けてしまいました。

この一年間を振り返ってみると、本当に刻一刻、すべては私の宝物です。美しい思い出がたくさん、もう数えられないぐらい、もうはっきり覚えていないぐらい多かったです。それに、学校生活での、私の毎日はいつも忙しくて充実していました。嬉しいことは、学校も、友達も、誰も私のことを外人さんとは思わず、私はみんなと一緒に、一緒に通学して、一緒に部活で頑張って、一緒にいろんな学校行事を準備して、一緒にテスト勉強して、異なることは何もありませんでした。

最も感動したことは、クラスマッチの時、私達36人が円になって、大声でクラスのスローガンを叫んでバスケの選手達を応援しました。その一瞬、私は中国の学校のことも思い出しました。目に前のと印象中の光景が重なって、その団結力は、私に無上の誇りと喜びをもたらしてくれました。

最も幸せなことは、ちょうど新学期の始まり、17歳の誕生日の日でした。誕生日のこと、私はわずかな友達しかに言ったことはありませんが、いつもどおり学校に行きました。みんなのあいさつが全部いつもの「おはよう」から、「誕生日おめでとう」になりました。昼休み弁当を食べてまだ歯磨きしているときに、いつの間にか、みんなが私の後ろに立って、「ゆうちゃん誕生日おめでとう」と叫んでくれました。続いていろいろなプレゼントをもらって、みんなが作ってくれたアルバムを見ると、嬉しすぎて、幸せな涙も流れてしまいました。そうです、そのときは私が日本に来て初めて泣きました。

また放課後、家に帰ると、いつも私を待っている家族がいます。遠くから、その家の明かりを見るたびに、心が静まって暖かくなります。祖国から千里の彼方にも離れているところに、私のかわいい家があり、私の愛しい家族がいます!これはどんなに幸せなことでしょうか。

このお家で、あんまりキッチンで炊事したこともない私は、お母さんがいつも信頼してくれるおかげで、料理することに

興味を持つようになりました。更に、もっと自分の本音を言わなければ、もっと自分を表現しなければいけないと、お父さんが教えてくれました。それで、自分の人生に責任を持つ人は自分しかいないこともわかるようになりました。ここで、私はいつもその日本家庭の緻密な優しさに囲まれて、だんだんその「思いやりの気持ち」を見習って、身につけることができました。

周りの人々はいつも優しくしてくれて、誰とも友達になれます。なんか空気にもかごしまの特別な熱意が漂っている感じがします。

本当に、かごしまが大好きです。

晴れの日、雲が桜島に低く載せて、悠々たる錦江湾に浮かんでいます。海風が漂って来て、竹葉っぱが心地よく鳴らして、甲突川に澄んだ漣がゆらゆらと揺れています。見渡すかぎりの緑と賑やかな街、この町と自然のハーモニーは、私がずっと求めていた理想的な生活ではありませんか。

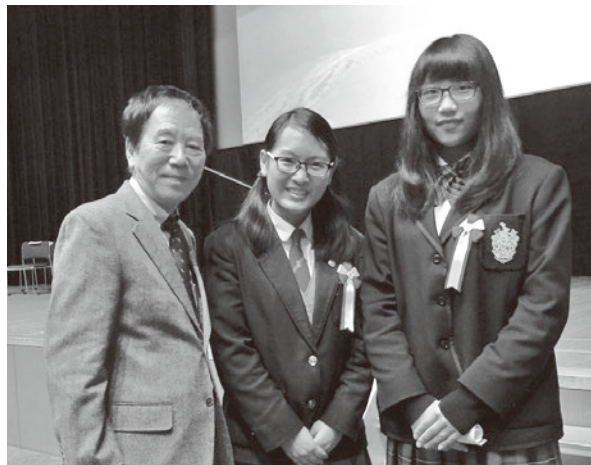
最初不安で躊躇っていたその女の子は、ここで居場所が出来上がっており、ここはもう単なる目的地だけでなく、私にとって、ふるさとのような存在なのです。

この一年間、みんなと一緒に行きたいところに行き、一緒に食べたい物を食べて、君達と若いうちに会って、私は 幸せです!

かごしまが大好きだから、こんなに美しいところに君達がいるから、またいつでも帰りますから、だから、さようならを言いません。

そのとき君達の笑顔も、君達と思い出を語るのも、ずっと楽しみにしているから、だから、またね。

はい、またね♡



貴重な一年間

沖縄県立向陽高等学校／武漢外国語学校

王 逸雯

WANG Yiwēn



「グスーヨーチュウガナビラ」

皆さんはこの言葉聞き取ることができますか？

これは沖縄の方言で「皆さんこんにちは」という意味です。独特ですね。実は沖縄の県民性も方言と似てとても独特です。

私の沖縄に対するイメージは：青い海、豊かな自然、赤瓦の上のシーサーなど、とても魅力的な物でした。沖縄で生活して、イメージ通りのところだと思いました。

沖縄の方言には「イチャリバチョーデー」という言葉があります。この言葉の意味は「一度会ったらみんな兄弟」です。w

前に、沖縄の観光地の国際通りに行った時、本土と違う雰囲気を感じました。こちらの店員はお客さんと一緒になって、三線を弾いたり、太鼓をたたいたり、踊ったりしていました。国際通り全体を見ると、一つの大家族のようでした。私がきたばかりの時はそこで迷子になったことがあって、その時に店員さんは目的地まで案内してくれました。

これまで、沖縄の人の優しさや雰囲気に触れて、「イチャリバチョーデー」という言葉の意味を理解できるようにできました。

日月が経つのは早いですね。

振り返ってみると、この一年間の留学は私に愛と理解の大切さを教えてくれました。来る前は「ただただ勉強したい。早速日本語能力を上げたい。」という功利心を持って日本に留学にきた私は、学校で学問の厳しさを磨かれ、勉強することはただ単なる知識の獲得、またいい点数だけではなく、真理を追究することであるとわかるようになりました。

そして生活リズムが早く、プレッシャーが大きい日本での留学は、私にとって、確かにそんな甘いものではありませんでした。

以前は困難に直面した時、いつも親に頼って、私に代わって解決してもらおうことが多くありましたが、日本に来てから、親と離れて、どんな困難があっても、自分で解決しなければなりません。逃げずに自分の力で立ち向かう勇気を学びました。

私の事物に対する思考、生活態度や将来の生き方などのあらゆる方面において、多大な影響を与える素晴らしい体験となりました。特に、私は今回の留学で初めて、いつも生活し、慣れ親しんでいた土地を離れ生活したので、生活の些細なひとこまさえ難しさがとても感じられました。

日本留学の生活もうそろそろ終止符を打つところですが、私は今日まで辿りつけたのは、友達の応援があったからだと思います。

最後に、この一年間いろいろお世話になった交流センターと学校の先生方、留学生たち、そして日本での友達に感謝するとともに、日本で学び、感じ、思ったそれぞれのよい思い出を忘れずに役立てたいと思います。

この一年間は私は人生にとって、掛け替えない貴重な一年間でした。



第十期生を 受け入れて

1年間お世話になった受入校の先生、クラスメート、
そしてホストファミリーの皆さんから、
十期生に向けたメッセージと、
受入れについてのご感想をお寄せいただきました。



本校は本年度（平成28年度）で創立30周年を迎える県内でも比較的歴史の浅い学校です。心連心の中国高校生長期招へい事業において、第5期生から現在の第11期生まで7名（全て女子生徒）を受け入れており、本校の歴史のおよそ1/4は心連心と共にあります。

本校で学ぶ心連心の留学生への洗礼の一つに、来日直後に開催される体育祭が挙げられます。体育祭のような学校行事を体験したことのない彼女らにとって、本校での集団演技も非常に新鮮でショッキングなのだそうです。また、ロードレース大会、修学旅行、クラスマッチ、文化祭などの中国では珍しい行事に対しても、他の生徒同様に準備段階から積極的に参加して日本の高校生活を満喫しています。

年間を通しての朝学習（午前7:40から行われる朝補習で、考查期間中は朝自習）は九州ではお馴染みですが、本校への留学生たちにもお馴染みのようです。「中国でもやっています。」と平然と受け入れて参加しています。その他の学習面においても、学習に対する彼女たちの態度はまさに向学心に燃えており、中国代表としての誇りや気高さ、中国の教育水準の高さなどを感じさせます。一方、祖国では最優秀クラスの成績を収めている彼女らですが、さすがに来日当初の言葉の壁や、文化・慣習等の壁を越えるのには一苦労しているようです。しかしそこはさすが、中国代表の意地なのでしょう。不屈の精神力で不断の努力を積み重ね、全員が乗り越えていっています。

さて、彼女たちが楽しみにしているのは、学習内容そのもの以上に（という用語弊がありますが）中国と日本における高校生活の違いや共通点を体感することや、日本の高校生との交流ではないかと感じています。部活動へも意欲的に参加していますが、日本の伝統文化への興味を示す生徒が多いことから、特に茶道部は人気が高いです。飲茶とは異なる茶の湯の世界、そして浴衣姿でのお点前披露に強く心惹かれるようです。6月開催の文化祭では浴衣姿とともにお点前を披露する留学生が多く、綺麗な浴衣に身を包んで嬉しそうな表情を浮かべるのを見ると、万国共通の女の子の喜びが垣間見える気がします。緊張感が次第にほぐれて生活のリズムが構築されてくると、日本の女子高生らしさも出てきて、女子トークで盛り上がるのも万国共通なのか

もしれません。

また、一般の日本人生徒がはるかに及ばないような高度な英語力を持っているのも本校で学ぶ生徒たちの特徴です。授業中に英語を発する機会があると、その発話力の高さや思考・内容等の深さに教室には嘆息やどよめきが溢れます。特にこの数年間の傾向として、本校の特色の一つである外国語系に所属するため、日本人生徒の良きお手本となってくれています。留学生からは英語や中国（語）を教えてもらい、留学生には日本（語）を教えることで、お互いに良好な関係を構築しています。10期生の優ちゃん（張戈さん）は県の英語プレゼンテーション大会の準備で八面六臂の大活躍をしてくれましたし、11期生の周躍さんを迎えたわがクラスでもすでに「次の席替えでは周ちゃんの隣になって英語を教えてもらう」などの声も聞こえてきます。

英語力の高さに加え、本業の!?日本語学習については、1月に県内で本選会のある「外国人による日本語スピーチコンテスト」にも毎年のように参加しており、来日数ヶ月で内容面も発話面も非常に見事なスピーチを披露してくれています。発表を聞く機会を得た8期生の崔舒淵さんのスピーチには、内容や表現力の愛らしさに思わず笑みがこぼれ、10期生の優ちゃんの時は溢れる優しさに涙したのを記憶しています。なんと優ちゃんは優秀賞までいただきました！

このような多くの気づきと感動を与えてくれる心連心の留学生たちに感謝の念を抱かずにはいられません。また、帰国後の彼女ら（彼ら）がさらに大きく成長して、両国をつなぐ大きくて強固な懸け橋になってくれることを切に希望します。

今回このような寄稿の機会をいただけたことで、今までのことを振り返り、今後についても内省することができ、私自身にとって大変貴重な経験でした。いつも支えてくださる日中交流センターの皆様には本当に感謝申し上げます。また、7年間の長きにわたって変わらず受け入れをしてくださっている松木場様のご協力なしには、このような縁をいただくこともなかったことでしょう。この場をお借りして改めて心からお礼を申し上げます。

末筆ながら、さらなる10年が今まで以上に実りあるものになりますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年9月初めて心連心の留学生である侯天妍さんを受け入れました。生徒たちもおだやかで優しい新たな友人をすぐに受け入れ、ホストファミリーの川畑さんも自分の子どものように接していただき、順調な1年となるはずだった4月、熊本を地震が襲いました。

断層が走る益城町にある私の家では突然激しい揺れが起こり、我に返ると家中家具類は倒れ物が散乱していました。洗面所にいた小学生の娘は、揺れて座り込んだ壁際と倒れた家具の間の小さな空間にいて助かりました。

余震の恐怖から車中泊を始めた翌日深夜に2度目の地震に襲われ、前例のない地震の連続に被災地には大きな恐怖が走りました。

侯さんの身の安全に奔走されていた日中交流センターからもすぐに連絡があり侯さんが無事だと知り安心いたしました。離れた場所で家族を抱えて何もしてあげられない状態でした。

その後、川畑さん一家が避難所で一夜を過ごし、本震の翌日には東京に避難することになった侯さんを、私鉄が通じていた大牟田駅まで車で送って行かれたと聞いて、その優しさと勇気に胸がいっぱいになりました。

当時、どの家族でも差し迫った問題は水と食料でし

た。商店はコンビニを含めほぼ全てが閉店し、営業を続けたわずかな店舗には人が殺到して、多くの人は家の食料などでしのいでいました。

道路もあちこちで褶曲・ひび割れし通行もままならず、さらに買い出しの車、緊急車両、応急工事の車両、支援物資を届けるトラックが押し寄せひどい渋滞でした。そんな状況で川畑さんは家族を後回しにして、道路状況も全く読めない中、侯さんを他県まで送っていかれたのです。経験のない地震に不安がる侯さんを少しでも早く快適で安心できる場所に連れて行きたいという親心・母心がなせることだと思います。やっと送り届けたときには出発時刻の直前で別れの言葉・励ましの言葉も十分に掛けてやれなかったそうです。

7月に侯さんと熊本で再会したとき、川畑さんの目には涙があふれていました。きっとこの間の思いが次々によみがえったからだと拝察いたしました。

災害には何一ついいことはありません。しかし闇のような状況の随所で人間性が輝きを放ち希望を繋いでいきます。今回ホストファミリーの魂の輝きを見せていただいた思いがいたしました。そして全国の受け入れ家庭（寮）で同じく無私の愛情を注がれている方々にあらためて思いを寄せずにはられませんでした。



平成27年4月、清風南海高等学校で初めての長期留学生の受け入れを提案しました。男子と女子の比率が2:1の男子校なので、男子に強い刺激を与えたいとの狙いで管理職と相談して、成績優秀な男子留学生を希望しました。学校での受入は非常にスムーズに進みましたが、ホストファミリーの確保に当初は少し苦労しました。一か月を越える留学生の受け入れは、具体的にどんな生徒が来るのかわかる迄、手を挙げにくい空気がありました。しかし、韓東学君が来校して彼の真摯な学習態度や誠実な人となり口コミで評判を呼び、後半は難なく決まりました。

韓君は、来日後すぐの研修中に、古本屋に入り東大の赤本を買ったという実直勤勉な生徒でした。彼はしばらく大阪弁に慣れるのに時間がかかったようでしたが、慣れるとめきめき頭角を表しはじめ、クラスでも上位の成績を占めるようになり、囲碁部、プラスバンド部、ESS等の部活動にも熱心に参加するようになりました。また、話しかけられたら誰にでも気さくに対応するその人柄故に友人も増えていきました。

来日して一か月が経過し、日本の生活に慣れ始めた頃でした。放課後、重たい学生鞆を持って走った時に転倒して、足首骨折で2ヶ月間松葉づえをつくハプニングがありました。運悪く、本人が希望していた大阪大学の土曜午後の高校生セミナー（数回シリーズ）の開講日直前で、松葉杖での乗換え3回を含む片道1時間半の電車通学はとても無理だと思っていました。

ところが、彼は留学中このセミナーに出ることを何よりも楽しみにしていたようで、「這ってでも行きたい」と主張したので、彼の学問への熱意を感じてOKしました。しかし、ホストマザーが「骨折治療中なので移動中に何かあったら…」と療養を一番に考え、セミナー参加には難色を示されました。

ホストマザーのご苦労を察すると止めさせるべきだし、本人の気持ちを尊重して行かせてやりたいという気持ちの狭間で葛藤し、結局毎回私が本校から大学まで一緒について行くということで何とかホストマザーの了解を得ました。大学で学べる喜びを知ったときの彼の目の輝きは、今も忘れられません。

彼はセミナー全てに参加し、見事有終の美を飾りました。

韓君は、しっかりした強い信念を持ち、11ヶ月の日本滞在を日々有意義に過ごしてくれたものだと思います。1000人近くの保護者を前に映像を使って日中交流事業について説明をし、最後には2000人近い中高生や教職員を前に別れの挨拶を見事な日本語でやり遂げてくれました。日本語でスピーチをする度量も十分につけたと言えるでしょう。彼は今、2年後の東大合格めざして、現在勉学に励んでいます。



シュウちゃんを受入した約11ヶ月は、あっという間でした。彼女は私たち夫婦にとっては娘、小学生の息子にとってはお姉さんという存在で、とても素敵な楽しい時間を過ごしました。

私は、ホームステイイン津という国際交流の団体に所属しています。今までに世界各国の約60名がわが家にホームステイしました。受入の際いつも心がけているのは、「自然に」ということです。そして、シュウちゃんも「自然に」うちの子になりました。

シュウちゃんは、明るく素直で、とても可愛いらしい子でした。そんな彼女はすぐに学校でも友だちができ、学校での生活に関してもなにも心配することはありませんでした。

毎日、少しでも時間があれば、勉強し、常に優秀な成績をとっていました。苦手な科目に対しても、逃げずに頑張っていました。こんなに努力家で一生懸命な子は、初めてでした。息子はわからないところを教えてもらって、彼女をととても頼りにしていました。

部活動にも一生懸命に取り組み、弓道に挑戦しました。最初は、「腕が細いので、弓をひくのも大変だろう…。ましてや、的に当てるところまでは難しいのでは…。」と言われていました。しかし、毎回の練習を休ま

ず行くことにより弓を引けるようになり、最終的には的に当てることができました。それも、シュウちゃんのひたむきな姿が、弓道部の先輩や同級生に伝わり、周りの方が応援してくれたからだと思います。中国では、あまり経験がない部活動は、シュウちゃんにとって、本当に素敵な思い出になったことだと思います。

シュウちゃんは、毎日、学校であったことを私たち家族にたくさん話してくれました。いまだきの高校生のことを知る、とても良い機会になりました。彼女は学校で流行っている芸人のマネをするなど、子どもらしいところもたくさんあって、皆にととても好かれるのがよく分かりました。この11ヶ月の生活を通して、シュウちゃんは日本のことを大好きになってくれたようです。将来、日本の大学に入学し、勉強し、将来は中国と日本のかけ橋になるという夢を持ってくれています。

国という大きな単位で考えるといろんな問題もありますが、人と人で向き合うと理解し、お互いに信頼し、良い時間が過ごせると思います。ホストファミリーになると、それが実感、経験できます。

シュウちゃんと出会えて、本当によかったです。11期生も受け入れることが、決まっています。今から、新しい出会いを楽しみにしています。



職場の掲示板でホストファミリーの募集をみつけたとき、心が躍りました。すぐに家族に受け入れる意思を伝え、次の日には受け入れの連絡を入れました。わたしは海外旅行が好きで、中国人との交流もたくさんあり、中国人には独特の魅力があると感じていました。

包ちゃんはそんな私の期待を裏切ることなく、佐賀で11ヶ月の月日を駆け抜けました。

受け入れが始まる日まで、母はソワソワしていました。料理はどんなものを出せばいいのか、勉強はさせないといけいいのか。緊張しているのが伝わってきます。一方、東京でのイベントを終え、雨の降る中、永島家へ向かう車中では包ちゃんの口数が極端に少なくなっていました。包ちゃんが緊張するなあ、と言言。対面後は最初の晩餐です。永島家は人見知りばかりでなかなか話が弾みません。5人(と1匹)家族となり、うち解ける日のことを考え、わくわくしました。

永島家のことだから、うち解けるのに1か月はかかるとふんでいましたが、意外にも次の日には恋愛話をし、1週間後には馴染んでいたように思います。来たばかりの頃は、ソファアの上に座ろうとしませんでした。聞くと、「そこは兄ちゃんの席だから」とのこと。アイスを遠慮がちに食べていた包ちゃんが、日が経つにつれ、堂々とソファアに寝そべりながらアイスを食べる姿を見て嬉しくなりました。

あげればキリがないですが、あらゆる話をしました。日中関係、食べ物や人間関係のこと。母には悩みもたくさん話したようです。物怖じしない包ちゃんの性格が家族や学校の友人を惹きつけたのだと思います。

また、中国の子たちは好奇心が強く、自分の好きなことに貪欲だと感じました。包ちゃんの場合は絵や映画鑑賞で、暇さえあれば映画の世界に浸っていました。好きなことを追求することが、それぞれの強い個性につながっている1つの理由ではないでしょうか。

そんなこんなで1ヶ月後は完全に溶け込み、11ヶ月後には、そこにいて当たり前のような存在となりました。7月に包ちゃんが去り、8月にこの文章を書いています。まだ近くにいた感じがします。

別れる直前、空港で包ちゃんが「家族で話をしているときが1番楽しかった」と言ってくれました。たくさ

んのイベントや遊びに行きました。思い出はたくさんあるにもかかわらず、最も楽しかったのが会話であると言ってくれたことは、人として向き合えた証拠ではないかと思います。お別れ会で母が泣いたとき、空港での別れ際に包ちゃんが泣いたとき、受け入れをして本当によかったと感じました。

永島家はホストファミリーになるという貴重な経験ができました。包ちゃんは人種の壁を壊し、先入観に囚われない人との付き合い方を、11ヶ月をかけて永島家に教えてくれました。

ホストファミリーとして、包ちゃんの中にも何か残すことができたら、とても嬉しいです。

最後に包ちゃんへメッセージ

父：今のうちに苦勞をしといて、将来を勝ち取って下さい

母：身体に気をつけて、ほうちゃんらしく、生きていてほしいです。

兄：いつでも遊びにおいで～またBBQするよ！

姉：ほうちゃんが永島家から離れて、元の生活に戻っただけなのにとても寂しいです。



私には初めての中国人の友人ができました。

その友人、李東哲君は日本語だけでなく英語もでき数学ではクラスで一位を取るほど頭が良く、とても驚きました。

そして性格も明るく、一緒にいてとても楽しい友人です。

彼が日本に来てすぐに2人で地域イベントとして開催されたウナギ捕りに参加しました。一匹も捕ることができませんでしたが、泥塗れになりながら必死で探したのは良い思い出です。他にも、一緒に映画を観に行ったり、ご飯を食べに行ったり、たくさんの思い出ができました。

もっと日本を見て知って欲しかったし、もっと中国のことを知りたかったです。

また日本に来て、今度は宮崎以外の良いところも見てね。

いつでも待っています!!!



私の学校には、様々な国からの留学生が学びに来ています。その中でも中国からの留学生が多いです。その中国からの留学生の中で、去年の9月から金ちゃんと同じクラスになりました。初めて金ちゃんと会ったときは、「どんな子なのかな」と気になったので話しかけてみました。毎日一緒に過ごす中で、金ちゃんの優しいところやきっちりとしたところがだんだん見えてきました。

彼女とはたくさん楽しい思い出があります。学校の体育祭で一緒に種目に参加したり、学園祭では一緒に写真を撮ったりしました。また、遠足で姫路セントラルパー

クに行って一緒にジェットコースターに乗ったり、一緒にずっと行動したり、すごく楽しくて嬉しかったです。学校では中国語を少し教えてもらい、中国の学校生活の話を聞きました。「勉強は日本より中国の方が大変で、厳しい」と聞いて大変なんだなと思いました。いろいろなことを金ちゃんに教えてもらい、私も勉強になりました。

金ちゃんが春休みに私の家にホームステイに来て、少しの間でしたが、すごく楽しかったです。これは彼女との一番の思い出です。金ちゃんと一緒に学校で勉強できてよかったです。また学校に来てください!!



同世代の高校生が単身、異国の地で約1年間の高校生活を送る様子を目の当たりにし、特にクラスで交流がよくある生徒が自分の殻を破ったり世界観を広げたりするのに大きな役割を果たしていると思います。部活動をかけもちしたり、テストで日本人生徒以上に好成績だったりすることで良い刺激になっているようです。

大きくは深い交流を重ねてきた国同士が、現状に捉われずに理解することが大切だと思います。身近な視点では、直接面識のある人が中国にいて、親近感も湧きますし、プログラムの目的に添うと思います。

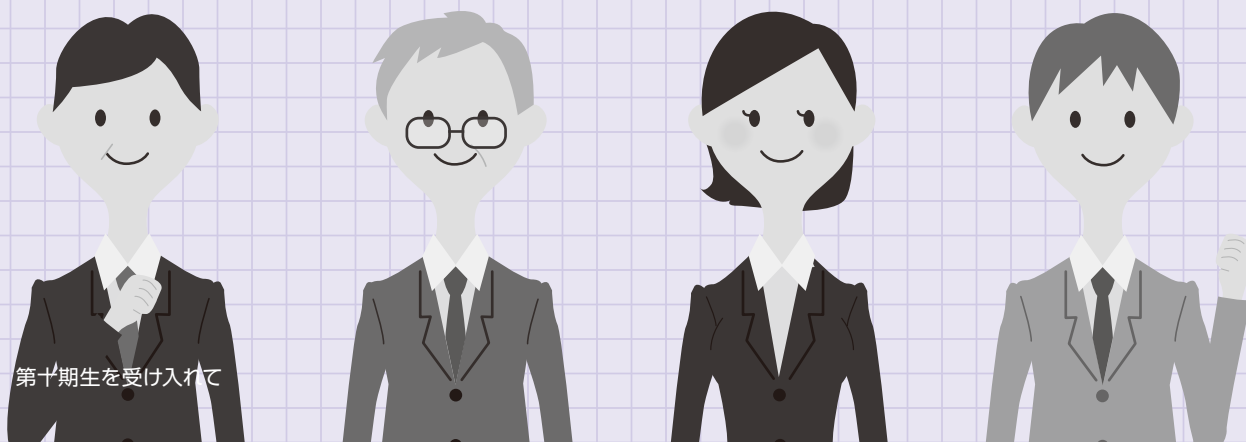
学習への取り組み方がとても真剣であり、見習うところが大きかった。留学生がクラスにいて、分からない点をフォローするなど、優しさも生まれた。中国語を学ぶ生徒もいた。

日本を理解し、将来日中の架け橋となる可能性の高い生徒(人物)の育成は、将来日本にとって有益になると思われる。

真面目に授業や部活動に取り組む様子や日本語の上達ぶりから、異文化を理解しようとする気持ちや努力をする姿の素晴らしさを日本人生徒は感じたと思う。

外国語を流暢に不自由なく話す同年代の留学生を見て、英語や中国語を学習している本校の生徒も刺激を受けたと思います。

受 入 校 の 声



外国語である日本語を流暢に話す様子に、本校生徒たちは刺激を受けていました。また、生徒たちにとっては“友達”としてかけがえのない存在でした。

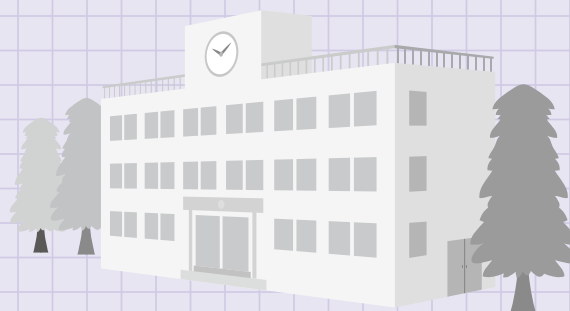
中国人と接することで中国文化や中国語に興味を示し、大学で中国語を学びたいという生徒もいる。

観光客はたくさんいるが、普段たわいもない話は留学生とでなければ、日本の高校生には機会がない。クラスに、学校に、留学生がいることで、中国のことを少しずつ知ることができる。

留学生を受け入れている家族がいると知ることは、それだけで生徒、教職員、保護者の意識に大きな影響を与えています。高校全体で各種国際交流に応募する生徒が増えました。また国際交流基金の留学生という信頼感も交流をすすめる大きな力となりました。

本校は特に SGH (スーパー・グローバル・ハイスクール) として留学コースもあり、心連心の生徒を受け入れながら自分たちが留学する時/した時と重ね合わせている生徒が多数います。そういった生徒にとっても得るものが多い機会です。「文武両道」でクラブに励む高校生が中国の留学生には新鮮にうつるようです。お互いにより影響を与え合っていると感じます。

同世代の高校生が中国から来日して時間や空間を共有することで、お互いの国への理解が促進されていると思われます。日本人高校生には留学への啓発にもなったり自国を飛び出して世界を知る第一歩になったりもし、中国の生徒には新たな祖国や母校ができると思います。可能な限り継続してほしい事業です。





学校の先生から頼まれてお受けいたしました。子どもたちも私も緊張しながら協力して楽しい日々が過ごせました。案ずるより産むが易しの精神で乗り切ろうと自分自身思いこませ初日を迎えましたが、優しくて賢くて素敵な生徒で、彼との出会いに感謝します。



こうして若い皆さんがこの日本での経験や思いを持ち帰り、母国ではきっといろいろな影響を与えてくれるだろうと思います。



生徒の勉学に対する姿勢にはいつも感心させられる。子どもたちも見習って同じリビングで勉強したのは、とても良い刺激になりました。



いつもは主人と息子の三人なのが、(留学生を受け入れて)女の子がいるだけで家庭の雰囲気もよく、とても楽しかった。



長期の受入れは人間性も互いによく分かり合えて良いと思います。家が明るくなった。

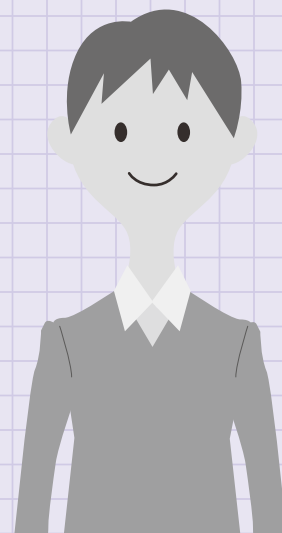


中国(人)に対する壁がなくなった。テレビ等で刷り込まれていた偏見がなくなった。



他国の人と生活する難しさを、今回勉強させていただきました。それでも、最後笑顔で帰国する姿に「日本は楽しかった」と思ってくれたかなと、少しだけでも役に立てていたら嬉しく思います。

ホ ス ト フ ア ミ リ ー の 声





「努力、我慢、頭の良さ、謙虚さ、敬老の心」楽しくてあっという間の一ヶ月でした。今はそのように思えますが、滞在中は無我夢中で、食事でお腹を壊さないようにと、また長男と同じように接しようと、細かなことを気にしました。ただ10ヶ月接して、そのような小さなことにこだわる必要などなかったのかもしれない、人間をみつめる視点が違うところにあると感じました。



主人は初の海外の方と一緒に過ごす時間を持ち、自分が中国の方へ持っていたあまり良くないイメージを改めたそうです。また、海外の方の文化に直に触れたことはとても勉強になったようです。



クラスメートから言われたみたいですが、〇〇さんで中国の人たちのイメージが変わったと！まさに私たちもそれでした。人の考えを変えるということは並大抵のことではありません。その機会を与えていただけることは有意義の何物でもないと思います。



私自身が海外でのホームステイ経験があり、自分がその時にホストファミリーにしてもらって嬉しかったこと、あまりよく思わなかったことなどの体験をふまえて接してきました。なるべく色々な話をしようと心がけていたので、お互い意見を交換するような形でお話できたかと思います。考え方の違いを知れて勉強になりました。



とても素直でいつもニコニコ、とても感じの良い生徒でした。優しく、よくお手伝いもしてくれて、一人家族が増えたようで私たち家族皆、お花が咲いたように明るくなってよかったね、と言っています。



中国の人々の様子を聞いて、生活や文化に興味を持ち、好きになりました。行ってみたくまりました。家族のようになってほしかったので、家族とは何か？をよく考えました。将来のことを一緒に話すことで、自分の子供の将来も考える機会になりました。言葉を学ぶこと、話す、伝えることの大切さ、そして自分の気持ちを伝え合うことの難しさも考えました。



日中間の関係があまり良くない中、一人でも多くの中国人学生が日本で勉強し、日本を理解するととても良いプログラムだと思います。

あとがき

2016年7月、第10期生31名全員が無事に帰国した。

現在は元の在籍校で元気に中国での高校生活を送っている。1年という時間が経過するのは早い。

そして、その間の中国人高校生たちの心身の成長は驚くほどに速い。

来日直後の何となく頼りないあどけなかつた顔つきが、1年間の日本での充実した高校生活を体験し、周りの方々に支えられながらも、いろいろな困難に直面しそれらを正面から取り組み乗り越えてきた自信から、いまや日中の次世代を担うべき人材として頼もしくも逞しい若者に育ってくれている。彼らの成長を傍らで実感できるのは喜ばしい限りである。

今年もまた31通りの涙あり、笑いありの熱いドラマが日本全国津々浦々で展開された。この報告書にも感動的なエピソードが、彼らなりの感受性に飛んだ豊かな言葉でちりばめられている。本事業のスローガンである「心連心」の気持ち、読んだ者の心に大きく響いてくる。

願わくば、彼らがこれからも心身ともに健全に成長し、日中相互理解のための良き架け橋たらんことを祈る。

今年は日中交流センター設立10年目の節目の年でもあった。ささやかながら、10周年の記念パーティーや心連心卒業生による大同窓会を開催し旧交を温め、10周年の記念冊子を発行するなどして祝った。

しかし私たちは、10周年はひとつの経過点に過ぎないとする。確実に次の10年に繋げるべく決意を新たにしたいところである。

最後になりましたが、第10期生を多方面より支えてくださった受入高校の先生方、ホストファミリーの皆様、そしてすべての関係者の皆様の日頃からのご尽力、ご支援に心より深く感謝申し上げます。

国際交流基金 日中交流センター

事務局長 堀 俊雄



日中交流センター職員一同

心連心ウェブサイト



<http://www.chinacenter.jp/>

日中交流センターでは、日本と中国の将来を担う若者たちが心と心をつなぎ合う“心連心”をテーマに、「高校生長期招へい事業」「中国ふれあいの場事業」「ネットワーク強化事業」を実施しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。



発行

**独立行政法人国際交流基金
日中交流センター**

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1

TEL : 03-5369-6074 FAX : 03-5369-6043

2016年12月発行

★ *Heart to Heart* ●



国際交流基金
日中交流センター

協賛：カシオ計算機株式会社
株式会社資生堂